

特定非営利活動法人 ACE

2015 年度事業報告

[期間：2015 年 9 月 1 日～2016 年 8 月 31 日]



【2015 年度の総括と全体評価】

< 全体総括 >

おおむね順調に事業を実施し意図した成果を得ることができた。今年度は特にノーベル平和賞受賞者のカイラシュ・サティヤルティ氏を日本に招き 4 日間のプログラムを通じて大きな波及効果・成果を得たこと、外部の賞の授賞も相次ぎ、組織への評価をいただけたこと、人員体制の変化にも関わらず変化に柔軟に対応し事業を遂行できたことが評価できる。また、映画『バレンタイン一揆』の学校向けDVD販売の開始や、ACEの支援地のカカオを使った高級チョコレートの販売など、エシカルな消費・ビジネスを支える活動にも進展があった。

< 外部環境 >

①「2025 年までに児童労働を終わらせる」と明記された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が 2016 年 1 月に発効、日本政府の取り組みも開始

「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(通称「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)」は、17 の目標と 169 のターゲットで構成され、目標 8「持続的、包括的で持続可能な経済成長及び完全で生産的な雇用とディーセント・ワークの促進」のターゲット 7 に「**強制労働の撤廃、現代の奴隷制および人身取引の廃止、子ども兵士の募集と使用を含む最悪の形態の児童労働の禁止及び撤廃のために、緊急かつ効果的な措置を実施する。そして、2025 年までにすべての形態の児童労働を撤廃する。**」と明記された(ACE 仮訳)。昨年 9 月に国連総会で合意され、2016 年 1 月に発効となった。これを受け、日本政府も「持続可能な開発目標 (SDGs) 推進円卓会議」を官邸に設置、第一回会合が 2016 年 9 月に開催された。また、この目標 8.7 の達成を推進する活動母体として、SDG Alliance 8.7 が 2016 年 9 月に発足した。SDGs 達成に向けた具体的行動を促すための枠組みが、日本、海外で進んだ。

②円ドル為替レートの変動とその対応

前年度の 2014 年末に急激な円安となり、ACE のインド・ガーナの現地プロジェクト実施費の海外送金の円＝ドル為替レートが当初計画とずれが生じ、活動に影響が出たことから、円＝ドル為替レートの変動への注視・対応の必要性が確認されていた。2015 年度は、続いていた円安基調が 2016 年に入り円高に転じたこともあり、そのような影響は免れた。対応としては、2015 年度よりドル口座を開設し、ドルベースの寄付も受け付けられるようになり、ドル預金をある程度保持することで為替変動に対応してきた。

③日本の子どもの貧困、児童労働と子どもの権利

日本の子どもの貧困については、多数の報道がなされ、子ども食堂の運営数も増えるなど、注目が集まり始めている。対策として官邸主導で「子どもの未来応援国民運動」も始まった。また 2016 年 1 月に国連報告者が「日本の女子学生の 13%が援助交際を経験している」と記者会見で発言したとの報道があり、日本政府が発言の撤回を求めるという事象があった。援助交際は日本国内の法律では違法ではないものの国際条約に照らして考えれば児童労働にあたる。またこの 13%という数字に対して、日本政府からの実際のデータの報告はなかった。このことから、日本の児童労働の実態を把握できていないこ

とがうかがえた。2016年は国連子どもの権利条約の報告年にあたり、外務省主催で関連省庁が多数出席し、報告会が開催された。

< 内部環境 >

外部リソース・機会の有効活用と波及効果

各事業ともおおむね順調に活動を実施することができた。今年度組織全体で力を入れて取り組んだのが、ノーベル平和賞受賞者で、ACE設立のきっかけとなったカイラシュ・サティヤルティ氏の招へい事業で、2015年12月に来日が確定したため、途中で予算を修正し、事業を実施した。5か月という短い準備期間の中、過去最大の国内事業を成功裡に終えることができたのは、資金調達や実施の面で、応援団をはじめ多くの外部関係者の協力をいただけたことが大きい。女性起業家向けメンタリングプログラムであるグローバルアンバサダープログラムの参加を通じた人脈の形成の効果も大きく、このような機会をうまく捉えることができた。助成金収入も過去最高となり、総じて外部リソース・機会の有効活用が、事業全体に良い効果をもたらしたといえる。またこの背景には、ACEがこれまで丁寧に築いてきたネットワークや関係性があることから、ACEを取り巻くソーシャルキャピタルの力がよく発揮された1年だったといえる。

さらに日経ソーシャルイニシアティブ大賞の国際部門賞、消費者教育教材資料表彰の最優秀賞などの表彰も相次ぎ、組織として積み重ねてきた成果が対外的に評価をいただいた点も今年の特徴である。

「学習する組織」への進化と新たな人員体制

事務局長の育児休暇とその延長、職員1名の退職と新規職員2名の入職、業務委託2名追加と、人員体制の変化があったにも関わらず、事業が大きな滞りなく実施され、収入も前年度を約1,500万円上回るすることができた。前年度に行った「学習する組織」の職員研修の効果がチーム力として発揮されたといえる。

全体評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	今年度はカイラシュ氏招へい事業の実施が期中に正式に確定し、一部事業においては計画を変更し、実施できなかった活動もあったが、柔軟に対応し成果をあげることができた。また、期中に職員の退職、新しい職員の加入、育児休暇の延長など予定外の動きがあったが、チーム力で対応し、ほぼ滞りなく事業を実施できたことは、個々の職員の能力の向上と努力、また前年度実施した「学習する組織」研修等による効果の表れと考える。	3
目標達成度 (目標値や実績をはかる指標がどの程度達成できたか。)	全体として事業、組織運営両方の観点から充実した1年となった。特に、ACE創設のきっかけとなったカイラシュ氏招へいを実現できたことで、大臣や議員とのネットワークができたことは大きな成果で、今後につながる財産となった。目標達成度は事業によって3~5とばらつきが出た。3と評価された、啓発・市民参加、ソーシャルビ	4

	<p>ビジネス推進の各事業については、事業の実施体制、手法、活動の精査など、目標達成度を上げる努力が必要と思われる。組織面においては財務戦略を策定し実行したことについて、その効果と意義が感じられた。</p>	
<p>予算達成度・効率性 (収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)</p>	<p>今年度は当初計画を上回る予算・規模のカイラシュ氏招へい事業の実施となったため、期中で全体予算を修正し、正味財産増減額がマイナスの想定となった。収入は当初予算比 102%、補正予算比 94% の約 9600 万円、前年度に比べ 1500 万円増となった。当初予算と比べて、寄付は 103% (補正予算比 92%)、事業収入は 110 % (補正予算比 94%) となり、収入全体は、前年度比 111% の伸びとなった。最も伸びたのは助成金で 255%、1180 万円となった。支出は当初予算比 100%、補正予算比 89% で、前年度比約 1600 万円増となった。支出の伸びに対する収入の伸びがおいついておらず、資金調達活動へ注力する必要がある。</p>	4
<p>発展効果度 (将来的な発展や他事業への波及効果はどの程度であったか。)</p>	<p>カイラシュ氏の招へいが主に日本政府に対する政策提言という観点でアドボカシー活動に大きなはずみをつけた。今年度行った映画『バレンタイン一揆』DVD 制作が、啓発のみならず新たな事業収入となり、他の教材とあわせて教材販売の事業収入増加に貢献している。組織運営面では、在宅勤務制度や office365 導入による働き方・仕事の仕方の変化が、個々人の力を引き出す方向に機能した。</p>	5
<p>総合評価 (今年度の活動によって、団体の目的にどれだけ近付けたか。)</p>	<p>3 年間の中期戦略の 3 年目となり、インド、ガーナ、日本でおおむね成果をあげ、順調な事業運営をおこなうことができた。インド・ガーナでのプロジェクトが順調に展開しており、児童労働のない原料を使った製品を世に出すという目標も達成することができた。アドボカシーにおいても、カイラシュ氏招へいの効果もあり次年度につながる布石を残した実感が持てる 1 年になった。ファンドレイズの課題は残るものの、自己資金率も高い割合を維持し、クラウドファンディングの成立も含め多くの方に共感・支援を得られている実感を持てた。これまでの活動が評価され、日経ソーシャルイニシアティブ大賞国際部門賞を受賞するなど、外部の評価を得られた 1 年でもあった。</p>	4

評価について：達成度合いを 5 段階で評価

(5：120%～101%、4：100%～81%、3：80%～61%、2：60%～41%、1：40%以下)。

総合評価は事業によって各項目の重みが違うこともあるため、他の評価項目の平均ではない。

1. 子ども支援事業

事業の目的：児童労働から抜け出し、適切な教育の機会を得て権利を回復する子どもを増やす

(1) 年度方針

- ① ガーナ、インドで「スマイル・ガーナ プロジェクト」、「ピース・インド プロジェクト」を実施するそれぞれの村で、住民の自発的な活動や地域関係者との協働により実施体制を確立し、子どもを危険な労働から守り、就学できるようにする。
- ② 現地での活動の成果や意義をよりよく周知するため、国内での他事業と連携しながら、積極的に情報発信をする。
- ③ 新しく取りくむ児童労働の分野・産業・地域を特定するための情報収集を行う。
- ④ 日本における子どもの貧困に関する子ども権利侵害の状況や対策などについて情報収集を行い、子どもの権利や児童労働等に関連した情報発信ができるよう準備する。

(2) 主な成果

プロジェクト	村の数	1年間で児童労働をやめて教育を受けられるようになった子どもの数（累計）	就学率（就学している子どもの数/村の義務教育年齢の子どもの数）
スマイル・ガーナ	4村	14人*（204人：2014年9月～）	91%（1,822人/2,000人）
ピース・インド	2村	211人（407人：2014年4月～）	88%（1,322人/1,500人）

*前年度に多くの子どもの児童労働をやめた成果が出たため、今年度の人数が少なくなっている。2015年9月の今年度開始時点で児童労働と特定された子どもの数は20人であった。

(3) 活動報告

- ① 「スマイル・ガーナ プロジェクト」の実施（継続）

活動地域	ガーナ アシャンティ州アチュマ・ンプニユア郡4村（カロンゴ、ジュレソ、ンスオテム、タノドゥマセ）
実施期間	2014年9月～2016年8月（予定）
主な受益者	義務教育年齢の子ども約2,000人、約1,600世帯、人口約6,600人
活動内容	子どもの保護と就学の徹底、親や住民への意識啓発、子どもの教育環境と教育の質の改善、カカオ農家を含む住民の収入向上と相互扶助制度の構築、行政機関との連携強化

- ・ カロンゴ、ジュレソ、タノドゥマセ、ンスオテムの4村では、児童労働に従事していた子ども14人が労働から救出され、2014年9月のプロジェクト開始時から合計204人の子どもが就学できるようになった。同じく33人の困窮な状況にある子どもに学用品を支給した（2年間で合計77人）。また昨年に引き続き同4村での就学率は90%を超えた。
- ・ 学校インフラについては、カロンゴの小学校の教室が増築され、1年生から6年生まで同じ学校に通えるようになった（以前は6年生から別の学校に通っていた）。またタノドゥマセ、ジュレソ

では新たに教員住宅が建設された。ンスオテムの中学校は完成にはいたらなかった。

- ・ 42 人のカカオ農家がカカオ農業トレーニング（ファーマービジネススクール）を受け、効率的でより収量増加につながる栽培方法を習得した。参加者は当初の目標より少ない人数となった。親が貯蓄などを行う互助会には合計 286 名が参加するようになった。
- ・ 子ども保護委員会、子ども権利クラブ、PTA/学校運営委員会において、メンバーのオーナーシップが高まり、プロジェクトの支援終了後も活動が継続される見込みが立った。また各村の長老会（オピニオンリーダー）と行政の間での定期的な会合が持たれ、児童労働をなくすための地域条例制定の見込みが立った（実際の制定は 2016 年 9 月以降の予定）。
- ・ プロジェクトが終了しているクワベナ・アクワ、アナンス、ウルベグ、パソロの 4 村では、その後も教室の増築や保健センターの新設などが行われており、プロジェクトの波及効果がみられた。
- ・ プロジェクト用の車両を新たに購入した。これに伴い、これまで使っていた車両は売却予定であるが、期中に買い手を見つけることができなかった。
- ・ 2015 年 10 月、2016 年 2 月、7 月の計 3 回、現地モニタリングを実施した。
- ・ 大口ドナーへの個別の報告は定期的にできたが、ウェブサイト等での情報発信はあまりできなかった。

② 「ピース・インド プロジェクト」の実施（継続）

活動地域	インド テランガナ州（前アンドラ・プラデシュ州）マハブナガル県 2 村（マッデラバンダ村、タティクンタ村）
実施期間	2014 年 4 月～2018 年 3 月（予定）
主な受益者	義務教育年齢の子ども約 1,500 人、約 1,640 世帯、人口約 7,600 人
活動内容	家庭訪問や話し合いによる子ども就学の意識啓発、学校との連携による教育環境の改善、子ども・住民グループづくり、親や住民の意識啓発のための集会・イベント開催、ブリッジスクール・職業訓練センターの運営、貧困家庭の親の収入向上支援

- ・ 1 年間で新たに 211 人の子どもがコットン種子栽培などの労働から救出され、プロジェクトで運営するブリッジスクールや職業訓練センター、または公立学校に通い基礎教育を受けられるようになった（ブリッジスクール 113 人、職業訓練センター 32 人、公立学校へ直接編入 66 人）。最終目標としている政府による公立学校や寄宿学校への就学は、116 人が実現できた（ブリッジスクールからの編入者 50 人を含む）。
- ・ プロジェクト開始時の調査では児童労働者として特定された子どもの数は 226 人だったが、今年度の活動の中で、調査時は出かせぎで村を不在にしていたなどの理由で 181 人が働いていることが新たに見つかり、義務教育年齢の子どものうち累計 407 人が児童労働者として特定された。そのうち 335 人（82%）がプロジェクト開始時からこれまでの活動により、労働をやめて教育を受けられるようになった。
- ・ 学校での教育を十分に受けられないまま義務教育年齢を過ぎた女子向けの職業訓練センターの運営を開始した。2 村合わせて一期生 40 名が仕立て屋になるための訓練を終え、無利子でミシンの提供を受けて各自で自営業を開始した。また、ブリッジスクールからの編入生を含む二期生 40 名が新たに訓練に通い始めた。
- ・ 貧困家庭の親を対象とした収入向上支援を始めた。当初は 18 世帯の親に畜産業（養羊）の支援を行う予定だったが 15 世帯に変更し、3 世帯に飲食屋台などの小規模ビジネスのための訓練と支援を行った。養鶏での支援は、過去の教訓から改善策を再検討したため実施が遅れた。

- マッデラバンダ村の公立学校では、行政への要請を通じて、女子トイレが新たに建設された。公立学校の教員と住民グループが連携して児童労働などの問題に取り組めるよう、関係構築のサポートを行った。また、労働をやめて教育を受けたことにより変化した子どもの姿を見て、教育の大切さを感じるようになった住民が増えた。
- 子ども権利クラブを結成し、子どもたちが抱える問題について話し合う場を設けた。自身の権利を自覚した女子の、望まない児童婚を未然に防ぐことにつながった。
- 2015年6月でフォローアップを終了したナガルドーディ村では、住民グループが自発的に大手NGOの研修を受け、児童労働のない村を維持する体制、また周辺地域への住民のノウハウ共有・普及の体制を整えている。
- 2015年10月、2016年2月、8月の計3回、現地モニタリングを実施した。
- 支援者向けの現地活動報告に関して、大口ドナー向けや活動レポートでは計画通り実施することができたが、ウェブサイト等での発信は定期的に行うことができなかった。
- 国内の他事業と連携し、イベントや講演・ワークショップ、リーフレット等で情報発信を行った。プロジェクトの成果報告書の作成と報告会の開催は、次年度に延期となった。

③ 新しく取りくむ児童労働に関する情報収集・ネットワーキング

- 日本の児童労働に関する調査企画書を作成し、必要な資金を獲得し、2016年9月から1年の期間で実施できることになった。準備段階として、情報収集およびネットワーキングのために、関連分野の組織7件を訪問し、セミナーに5件参加した。
- 新たに取り組む児童労働の分野を検討し、東南アジア地域の漁業やパーム油産業、アフリカ地域の鉱業等について情報収集・調査を行うことを決定した。

④ 子ども支援事業の実施体制の強化

- プロジェクト評価に関する実施マニュアルを完成し、国際協力ガイドラインに反映した。
- JICA や外務省などによる公的なスキームに申請するために、情報収集や行政上の登録等の準備を行ない、2016年以降の申請に向けての準備を前進させた。
- JICA による PCM 研修(モニタリング・評価)や、外部 NGO 団体によるインドでのコミュニティファシリテーター研修など、プロジェクト実施管理に関する各種研修に参加し、スタッフの能力強化を図った。またインドの現地パートナー団体と共に成果指標やレポート、現地での実施体制について見直し、改善を図った。

(4) 活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	<p><ガーナ> 成果のデータ収集やアドボカシーにかかる活動を除いて、計画していた活動はほぼ実施することができた。</p> <p><インド> 計画していた活動はほぼ実施できた。一部活動の遅れがあり、教育環境の改善が想定どおり進まない部分もあった。養鶏の収入向上支援に関しては、より効果的な支援となるよう、支援内容を変更した。</p> <p><新しく取り組む児童労働に関する情報収集・ネットワーキング></p>	4

	<p>情報収集の結果、計画通り 2016 年 9 月から日本の児童労働に関する調査を行えることになった。</p> <p><実施体制の強化>評価マニュアルは予定通り完成した。スタッフの研修参加等により能力強化を図った。インドの現地パートナー団体の業務改善を図り、プロジェクトの実施体制を強化できた。</p>	
<p>目標達成度</p> <p>(目標値や実績をはかる指標がどの程度達成できたか。)</p>	<p><ガーナ>児童労働から抜け出した子ども、就学率、学校環境の改善について目標を達成することができた。一方で、インフラ整備が進まなかった学校が一部あり、農業トレーニングの受講者が当初目標に届かない面もあった。</p> <p><インド>職業訓練センター等の運営開始により更に住民の教育への理解が進んだ。それにより、子どもの就学の目標値はほぼ達成することができた。支援対象者である児童労働者の人数は当初想定よりも増えた。</p> <p><新しく取り組む児童労働に関する情報収集・ネットワーキング>日本の児童労働に関する調査を企画し、次年度の実施が決定した。</p> <p><実施体制の強化>評価マニュアルが完成。公的資金の活用については JICA の草の根無償支援を検討。外務省 NGO 連携無償については着手できなかった。</p>	4
<p>予算達成度・効率性</p> <p>(収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)</p>	<p><ガーナ>プロジェクト予算の範囲内で支出をおさえることができた。プロジェクト用の新規車両を調達したが、旧車両の売却先を見つけないことができなかった。また緊急的に現地に資金を送金する必要性が生じるなどの課題があった。</p> <p><インド>予算の範囲内で収入向上支援など一部支援内容を変更した。村の現状や受益者本人の意向を尊重し、現状に合わせた変更のため、順調に成果を出すことができた。</p>	3
<p>発展効果度</p> <p>(将来的な発展や他事業への波及効果はどの程度であったか。)</p>	<p><ガーナ>子ども保護委員会、子ども権利クラブ、PTA/学校運営委員会で、メンバーのオーナーシップが高まるなど、各活動でプロジェクトの支援終了後も活動が継続することが見込める。</p> <p><インド>住民の教育への理解が進み、村の公立学校と住民グループが自発的に連携して働いている子どもへの対応を取れるようになってきた。</p> <p><実施体制の強化>評価マニュアルが完成し実践的に運用できるようにした。また JICA スキームへの申請準備が進んだ。</p>	4
<p>総合評価</p> <p>(今年度の活動によって、事業の目的にどれだけ近付けたか。)</p>	<p><ガーナ>活動はおおむね目標を達成できた。特に学校インフラの改善、住民のプロジェクトへの理解・協力の面では想定以上の成果を確認できた。</p> <p><インド>児童労働から抜け出して教育を受ける子どもの数は着実に増え、住民の教育への理解も進んでおり活動の成果を確認できた。</p> <p><実施体制の強化>ACE 及び現地のスタッフの能力強化、プロジェクト実施管理の改善に取り組めた。評価マニュアル、JICA スキーム申請準備も予定通り進んだ。</p>	4

(5 段階評価 5 : 120%~101%、4 : 100%~81%、3 : 80%~61%、2 : 60%~41%、1 : 40%以下)

2. アドボカシー事業

事業の目的：児童労働が重大な子どもの権利侵害であり、持続可能な社会の発展を阻害する課題であるという世論を形成する。

(1) 方針

- ① 「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択を機に、世界の児童労働に対する政策に合わせ、国内外へ児童労働撤廃に向けた働きかけを強化するため、ACE アドボカシー戦略を策定する。
- ② 2014年ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏の招聘をめざし、来日に合わせて児童労働問題への取り組みに関する発信を強化する。
- ③ ACE のワークショップ教材が消費者教育として活用できることをアピールし、教材販売と講師派遣を通じて、児童労働撤廃へ向けた世論の形成と事業収入の確保をめざす。

(2) 主な成果

- ① 「持続可能な開発目標」の 8.7 に「2025 年までにすべての形態の児童労働の撤廃」が明記されたことを受け、2015 年 9 月にニューヨークの国連本部で行われた「持続可能な開発サミット」に参加。情報収集やネットワーキングを行った。期間中にカイラシュ・サティヤルティ氏と面会することができ、カイラシュ氏招へい事業の実施に大きく寄与しただけでなく、2016 年 1 月に行われた「児童労働に反対するグローバルマーチ」主催による SDGs のワークショップへの参加、グローバルマーチの関係強化のきっかけとなった。
- ② 映画 DVD および教材の販売が目標を大きく上回り、全国の多くの児童・生徒に児童労働問題について伝えることができた。
- ③ カイラシュ氏招へい事業関連報道を契機として、児童労働に対する問題意識の浸透と ACE の認知度向上を図ることができた。

(3) 活動報告

- ① アドボカシー活動・戦略の策定
 - ・ SDG の目標 8.7 「2025 年までにすべての形態の児童労働の撤廃」の採択に伴い、周知活動および政治家や駐日外国公館などへものアドボカシー活動を行った。また、ACE アドボカシー戦略を策定するために情報収集を行ったが、戦略策定には至らなかった。
 - ・ 2015 年 9 月の国連本部での「持続可能な開発サミット」関連イベントに参加。ACE 総会での報告会を行った。国内で開催された SDGs に関するシンポジウム等にも登壇、参加した。
 - ・ 「児童労働に反対するグローバルマーチ」主催のアジア地域の SDGs のワークショップに参加した（2016 年 1 月、インド）
 - ・ SDGs の目標 8.7 の達成をめざしたマルチステークホルダーによる円卓会議を東京で開催した。ACE として初めて英語で実施した。（2016 年 5 月、カイラシュ氏招へい事業に含む）
 - ・ 駐日欧州連合（EU）代表部の人権タスクフォース、EU と日本政府の人権ダイアログに対する NGO からの事前ブリーフィングにてプレゼンテーションを行った。米国大使館を訪問し、ACE の活動紹介、ハーキン元上院議員の招へいなどについて意見交換を行った。

- ・ SDG の目標 8 について原稿を執筆し、Huffington Post に掲載された。

② 事業活動の広報

- ・ メディアに対する情報発信

ノーベル平和賞受賞後、初来日となったカイラシュ・サティヤルティ氏関連の事業において、プレスリリース等を通じた情報提供や取材提案を行った結果、53 件に上る報道を実現できた（当該事業年度中の件数）。児童労働問題に対するメディアの関心を引き出し、問題の背景や解決への糸口に焦点を当てた密度の濃い報道につなげることに成功した。

- ・ インターネットを通じた情報発信

ウェブサイトの年間アクセス数は着実に伸び、昨年度の 242,249 から 245,141 ユニークユーザーへと増加した（2892UU 増）。ACE の Facebook ページへの「いいね！」数が 1,670 増加し、6,493 となった。

- ・ 印刷物を通じた情報発信

2014 年度年次報告書、活動レポート Vol.29（2015 年 9 月 1 日～2016 年 1 月 31 日）と Vol.30（2016 年 2 月 1 日～6 月 30 日）、特別報告書「カイラシュ・サティヤルティ氏招へい事業報告」、各事業に関する印刷物などを発行し、ACE の活動に関する認知度向上を図った。

③ 児童労働の撤廃に向けた政府や企業に対する政策提言活動

- ・ 児童労働ネットワークの事務局、運営委員、メンバー団体として、例年に引き続き、キャンペーンや政策提言活動を実施した。2014 年度に行った「ストップ児童労働 50 万人署名」を、外務省（濱地政務官）、厚生労働省（塩崎大臣）、文部科学省（馳大臣）に提出し、政府による対応を要請した。また、「ストップ！児童労働 キャンペーン 2016」においては、「レッドカード+1 アクション」と名称を変え、レッドカードを掲げた写真と共に、児童労働のない未来に向けてそれぞれの人ができることを表明するように呼びかけた。キャンペーン期間中には 9,431 人が参加し、過去最高の動員数となった。
- ・ 市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can)の世話人として、8 月 26 日から 28 日にケニアのナイロビで行われた第 6 回アフリカ開発会議に参加し、本会議やサイドイベントを通じてネットワークの構築を図った。
- ・ 「児童労働に反対するグローバルマーチ」の日本コーディネーターとして、連携と情報発信を行った。
- ・ 日本の子どもの貧困、権利、エシカル消費に関する調査研究活動を実施した。

④ 児童労働問題に関する理解を促進させるための啓発活動

- ・ 一般市民や生徒・教員が児童労働問題への理解を深めるための講演活動

76 件、8,577 人を対象に講演を実施した。前年度と比較して、件数は 3 件少ないが、対象人数は 2,405 人増加した。消費者教育がテーマの講演が増え、「おいしいチョコレートの真実」「チョコと世界をのぞいてみよう」「この T シャツはどこからくるの？」のワークショップを、関東だけでなく、北海道、青森、山形、大阪など各地で実施した。映画『バレンタイン一揆』の上映と講演会のセットでの依頼も前年度より 5 件増えた（講師派遣実績は、39～42 ページに掲載）。

- ・ 映画『バレンタイン一揆』の字幕挿入と DVD 化、販売

2012 年に製作した同映画を、学校教育用の教材として DVD 化し、2016 年 2 月から販売開始。8

月までの7か月間で63本を販売。平成27年度「消費者教育教材資料表彰」優秀賞を受賞した。

・教材・書籍の貸出および販売

教材は、「おいしいチョコレートの実実」、「チョコっと世界をのぞいてみよう」、「このTシャツはどこからくるの?」の3点を販売。年間を通じて全国の小・中・高校や大学などから注文を受け、合計約500部を販売した。開発教育協会の教材体験フェスタ(3月)、開発教育全国研究集会(8月)にてワークショップの実施や教材販売を行った。「このTシャツはどこからくるの?」は、平成26年度「消費者教育教材資料表彰」最優秀賞を受賞した。教材貸出しは16件行った。

・書籍は、「わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて」、「子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート」、絵本「そのこ」を継続して販売。ACEが監修した、株式会社budori製作の絵本「とりがおしえてくれたこと こどもにつたえるフェアトレード」が発行された。書籍4種類合計で約260冊を販売した。

・フェアトレード等のチョコレートの普及を推進する団体・企業のネットワーク「チョコレート・アライアンス」の事務局を務め、コアメンバーとして、2回の主催イベントを企画運営した。渋谷ヒカリエのバレンタイン催事でのチョコレートの販売や、オーガニックフェスタ(大地を守る会主催)への出展などを、他のコアメンバー団体・企業とともに実施した。

・計画していた、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの支援地訪問と写真展の開催は、エボラ出血熱の影響で現地訪問を中止した。

・市民や学校での取り組みを促すための事例収集システムの構築は、助成金が獲得できず実施を見送った。

⑤ コットン生産地域の持続的な環境改善に向けた啓発・提言活動(地球環境基金助成事業)

・ACEオリジナル教材「このTシャツはどこからくるの?」を用いて、学校や消費生活センターなどでワークショップを行い、環境や人権に配慮したエシカル(倫理的な)コットンを使った製品を買い求めるように消費者への啓発を行った。

・企業によるエシカルコットン製品の開発・普及の実現をめざし、啓発イベントを行った。(イベント内容はソーシャルビジネス推進事業の活動報告③エシカルなビジネスと消費の促進に掲載)

・8月に教員向けの「消費者教育授業パワーアップ講座」を開催した。ワークショップ教材を活用して学校などで児童労働と環境の問題を伝え、児童・生徒たちが行動できる人材となることを目的とし、29人が参加した。

・コットン生産地域でのACEの取り組みを紹介・啓発するコットンリーフレットを作成し配布した。

・2016年10月に実施予定のインドのコットン生産地視察ツアーのために、現地との調整などの準備、広報を行った。

【参加ネットワーク】

アドボカシー事業の目的達成、および他団体との関係構築のため、下記のネットワークに参加した。

- ・児童労働ネットワーク(運営委員、事務局)
- ・チョコレート・アライアンス(コアメンバー)
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・市民ネットワークfor TICAD(Afri-Can)(世話人)
- ・社会的責任に関する円卓会議(運営委員)
- ・児童労働に反対するグローバルマーチ

- ・ 動く→動かす（会員）
- ・ JANIC 広報ワーキンググループ（コアメンバー）
- ・ 開発教育協会（DEAR）（評議員）（団体会員）
- ・ 2016 年 G7 サミット市民社会プラットフォーム

（４）活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5 段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	映画『バレンタイン—揆』の DVD 商品化は制作スケジュール・販売時期が遅れたが、助成金等を活用し完成させることができた。児童労働ネットワークで集めた署名の関係大臣への提出も、国会日程との折り合いがつかず難航した。フォトジャーナリスト安田菜津紀さん支援地訪問中止など、外部要因による計画変更も多かった。しかしながら、どの活動においても想定外の事態に対して、おおむね柔軟に対応することができた。	3
目標達成度 (目標値や実績をはかる指標がどの程度達成できたか。)	教材、映画、DVD の販売が好調で、目標を上回ることができた。児童労働ネットワークはキャンペーンの参加者が 1 万人を超え、また署名を大臣 2 名に直接渡すことができた。さらに、カイラシュ氏関連事業を含め、多くの人に ACE の活動と児童労働問題の解決の重要性をアピールすることができた。その他、広報や地球環境基金の助成金事業についても当初の目標を達成できた。	5
予算達成度・ 効率性 (収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)	教材、映画、DVD の売り上げが、目標より上回った一方で、重要な収入源のひとつである講師派遣は、謝金収入の目標を達成することができなかった。TICAD 参加費用の一部負担など、当初予定していなかった支出などもあったものの、予算についてはおおむね無駄なく効率的に活用することができた。	4
発展効果度 (将来的な発展や他事業への波及効果はどの程度であったか。)	カイラシュ氏関連事業を通じて、多くの人たちに ACE の存在を知ってもらうことができた。また、同事業では厚生労働大臣を含む国会議員や関連省庁とのネットワークを広げることができた。さらに、SDGs サミット、グローバルマーチの会議、TICAD などを通じて、海外とのネットワークも拡大した。また、教材や書籍の販売から講師派遣、チョコレートの販売へとつながり、他の事業への広がりがみられた。	5
総合評価 (今年度の活動によって、事業の目的にどれだけ近付けたか。)	カイラシュ氏招へいイベントをはじめ、国際会議やキャンペーンなどでも ACE の存在を多くの人々にアピールすることができた。講師派遣、映画・教材・書籍の販売なども、計画通りまたはそれに近い実績があった。またネットワークも拡大したため、アドボカシー事業は一定以上の成果を上ることができた。今後はそれを発展させることが課題である。	4

(5 段階評価 5 : 120%~101%、4 : 100%~81%、3 : 80%~61%、2 : 60%~41%、1 : 40%以下)

3. 啓発・市民参加事業

事業の目的：児童労働問題を知った個人・組織が、児童労働をなくすアクションの担い手になるように働きかけ、ACE の活動を支える支援者を増やす

(1) 方針

- ① ACE の存在や児童労働の問題を身近に感じ、活動に参加したいと思われるよう、イベントやグッズ販売、各種キャンペーンなどの機会を通じて、働きかけていく。
- ② グッズ販売については、チョコレートと、新たに販売を開始する ACE 支援地産コットン関連商品を、販売の二本柱として確立することをめざす。

(2) 主な成果

- ① 企業に勤める男性、20-30 代の女性、子育て世代など、様々な層を対象とするイベントを実施、つながる場をつくることができた。
- ② 「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」のボランティアへの参加をきっかけに、企業での販売会や ACE グッズの採用、個人寄付、イベント参加など、継続した参加、協力へとつなげることができた。

(3) 活動報告

① 主催イベントの開催

「児童労働や ACE の活動を伝える」イベントと「潜在的支援者との接点をつくる」イベント、2 つの切り口で企画し、開催した。様々な協力者を得て、既存支援者との関係を深めるとともに、新たな層へのアプローチも実現することができた。ただし、参加の数は、当初見込んでいたよりも全体的に少なかったため、集客方法やコンテンツについても見直していきたい。

【主な主催イベント】

11月21日	NPO 法人化 10 周年記念イベント「SDGs サミット参加報告」～持続可能な開発目標の達成に向けて、政府・企業・市民社会にできること～（東京・ゼンセン会館） （総会と同時開催）
12月19日	チャリティセミナー『これからの私たち』第3回 桐島瑞希氏「手放すことで開けた私の未来～失って得た私の道筋」（東京・日比谷図書館）
1月31日	親子で楽しむ♪映画『バレンタインー揆』上映+チョコパーティー～フェアトレードがつくる子どもの未来～（東京・ウィズダムアカデミー田園調布自由が丘校）
6月12日	トークイベント「Dream, Discover, Do! ～ノーベル平和賞受賞者カイラシュさんが教えてくれたこと～」（東京・HUB Tokyo）
8月3日	チャリティセミナー「経営コンサルタント小宮一慶氏と『道をひらく』を読む～毎日繰り返し読み見えてきた、人として、経営者としての道のひらき方～」（東京・グロービス経営大学院東京校）

② グッズ販売を通じた啓発、参加促進

- ・ チョコレート（11月～4月）：「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」、PeopleTree フェアトレードチョコレート、森永チョコレート<1チョコ for 1スマイル>を販売。「てんとう虫チョコ」の袋詰めと発送は、今シーズンも岩手県陸前高田市の社会福祉法人燦燦会（あすなろホーム）に委託した。震災から5年の節目を迎えたこともあり、あすなろホームとACEの取り組みが、時事通信を通じて新聞各紙に掲載された。オンラインショップなどを通じた直接の販売のほか、学校や店舗を中心とした卸・委託販売や、企業や労働組合等からの販売機会の提供など、多くの法人に販売パートナーとしてご協力いただいた。
- ・ 支援地産コットン（PIC）関連商品：商品の企画検討に着手したが、現地での調達計画変更の影響で、年度内の商品化には至らなかった。来年度の発売をめざす。
- ・ その他：食品を中心にフェアトレード商品のラインナップを拡充し、販売した。対面での販売機会では、展示パネルの改訂、商品陳列方法の改善、客層に合わせた新商品の販売など、購買傾向を把握する取り組みを実施した。また、オンラインショップをリニューアルしたり、楽天ID決済を導入するなど、利用者の利便性の向上に取り組んだ。

③ イベント出展、ボランティア活動の推進

- ・ 例年通り、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の各地で開催された、国際協力関連イベントに出展。各地でACEの認知度を高め、児童労働やACEの取り組みについて伝えることができた。
- ・ 大阪では現地在住の支援者の協力を得て、仙台、名古屋、福岡では地域グループの協力を得て、イベント出展を実現することができた。仙台では地域グループの企画、主催で報告会も1回実施した。
- ・ 「グローバルフェスタ 2015」は今年から、会場をお台場に移しての開催となった。展示・物販ブースでは引き続き、高島屋労働組合よりボランティアを受け入れた。
- ・ 「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」の包装や報告書発送など、個人や組織単位で参加できるボランティアの機会を提供することができた。チョコ包装ボランティアは、事務所および企業の会場を借りて実施した。個人でのボランティア参加がきっかけとなり、企業内での販売会が実現したり、個人としての寄付やイベント参加などにつなげることができた。
- ・ 1月31日に開催した親子向けイベント参加者を中心に、ボランティアグループとして新しくACEママチームが発足した。来年度以降イベントなどを実施していく計画。
- ・ 学生チーム「PeACE」の活動が休止状態のため、運営について検討をおこなった。具体的な活動は来年度以降引き続き検討する。

【主な出展イベント】

東 京：グローバルフェスタ JAPAN（10月3-4日、お台場センタープロムナード）

メーデー中央大会（4月29日、代々木公園）

仙 台：せんだい地球フェスタ（10月25日、仙台国際センター） ※協力：ACE 仙台グループ

名古屋：ワールド・コラボ・フェスタ（10月24-25日、オアシス 21「銀河の広場」）

※協力：ACE 名古屋チーム

大 阪：ワン・ワールド・フェスティバル（2月6日-7日、関テレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園）※協力：大阪商業大学下山ゼミ

福 岡：地球市民どんたく（11月14-15日、アクロス福岡）※協力：ACE 福岡チーム

④ 児童労働をなくすアクションの担い手を増やすための活動

・ 「そのこ」の未来キャンペーンの実施

昨年、一昨年に引き続き、6月12日の「児童労働反対世界デー」にあわせて、谷川俊太郎さんの詩「そのこ」を通じて問題を伝え、児童労働のない社会を実現するための活動資金を集めることを目的としキャンペーンを実施した。5月14日から8月31日までを強化月間とし、6月には、クラウドファンディングサイト「JAPANGIVING」を通じて「夢も、希望も、命も奪う。そんな児童労働から子どもを救いたい！」プロジェクトを立ち上げ、22日で約200名から340万円の寄付を集めることができた。

・ BAG TO THE FUTURE キャンペーンの実施

古本、CD・DVDや、ブランド品、商品券等の物品提供を通じた寄付のプログラムを継続。労働組合による協力のほか、キャンペーンへの参加者によるTwitterでのシェアをきっかけに、新規の参加者を獲得することができた。

・ 会員、マンスリーサポーター、一時寄付者等、支援者の獲得

講演やイベント参加、グッズ購入、ボランティア参加等の各種活動やメディア掲載などを通じて、ACEの活動や児童労働問題を知り、関心を持った個人や組織が、継続してACEの活動に参加し、支援者になるよう働きかけた。

⑤ ネットワーク活動

・ NGO-労働組合同際協働フォーラム（合同企画委員・児童労働グループ 事務局）

合同企画委員として全体運営への参画に加え、シンポジウムタスクメンバー、課題別グループ「児童労働グループ」の事務局として、下記のイベントを企画、実施した。メーデー等へのイベントにも出展した。

- NGO-労組国際協働フォーラム主催シンポジウム「持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために -NGOと労働組合のパートナーシップ」の企画メンバーとして参加、またパネリストとして登壇
- 「連合3.8国際女性デー中央集会」に合わせた啓発カフェ（母子保健グループと共催）
- 「ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏来日記念公開シンポジウム」（ACE、児童労働ネットワーク（CI-Net）の三者共催）

（４）活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	イベント出展やボランティアは、外部の方々の協力もあり計画通り実施することができた。主催イベントは当初の計画を一部変更することとなり、計画していた2つのイベントが実施できなかった。物販は、予定していた物品の販売は行ったが、特に「てんとう虫チョコ」については、高い販売目標を設定していたのに対し、十分な販売戦略・計画、実施体制を確立して実行することができなかった。	3
目標達成度 (目標値や実績をは	ボランティアに参加者した人数は計画以上となり、特に法人経由での参加者が増えた。「社員参加型のボランティア機会を提供したい」企業のニーズをともマッチし、ACEのファンになってもらう良い機	3

<p>かる指標がどの程度達成できたか。）</p>	<p>会になっている。一方で、イベントについては、各イベントで想定した（潜在的）支援者層が参加している実感はあったが、参加者数が目標に達しなかった。イベント参加者がマンスリーサポーターや会員などの支援者やアクションの担い手になることを見込んでいたため、サポーターや会員の増加にも十分つなげることができなかった。</p>	
<p>予算達成度・ 効率性 (収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)</p>	<p>「てんとう虫チョコ」の販売は、昨年度比 140%の売上目標を立てたが、掲げた目標に対して十分な計画を立てて実行することができず、ほぼ昨年並みの実績にとどまった。「てんとう虫チョコ」以外を含む、物販全体についても当初予算で立てた収入目標を達成できない見込みとなったため、補正予算で下方修正した。</p>	4
<p>発展効果度 (将来的な発展や他事業への波及効果はどの程度であったか。)</p>	<p>「てんとう虫チョコ」をきっかけに活動に参加し、それが参加者自身（個人、法人）のとりくみに発展するケースが増えており、今後も同様の効果が期待できる。子育て世代を対象としたイベントを実施した結果、その参加者を中心に、ACE ママチームの発足に発展した。今後の活動の発展が見込める。児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム（児童労働グループ）との共催でのシンポジウムは3年ぶりの開催となり、個人の支援者や企業関係者等、これまで支援、協力してくれた方々が集まる機会にもなった。ネットワークに参加している労働組合関係者の児童労働への取り組みへのモチベーション向上にもつながり、今後の協力強化も期待できる</p>	4
<p>総合評価 (今年度の活動によって、事業の目的にどれだけ近付けたか。)</p>	<p>主催イベントや物販の売上など計画が不十分で目標を達成できなかったところもあったが、波及効果がみられることもあった。ボランティア参加がその後の寄付や企業としての協力につながっている部分もあるため、イベント参加者や物販購入者を増やすとともに、会員やマンスリーサポーターなど、継続的な支援者になるようなしかけや施策を熟考し、実施していく必要がある。</p>	3

(5段階評価 5：120%～101%、4：100%～81%、3：80%～61%、2：60%～41%、1：40%以下)

4. ソーシャルビジネス推進事業

事業の目的：児童労働のない、持続可能な社会のためのビジネスの在り方と企業の行動を促進する

(1) 方針

- ① ACE 支援地域のカカオ、コットンを使った商品の製品化を継続させる。
- ② ACE 支援地域の原料利用に関するビジネスモデル・ブランディングを確立させる。
- ③ 持続可能な消費・調達推進、エシカル推進の動きに合せ児童労働に関する情報提供・発信を強化する。

(2) 主な成果

- ① ACE 支援地のカカオ豆が日本に輸入され、それを使った商品の販売が決定した。
- ② ACE 支援地のコットン、「ピース・インド・コットン」のブランドロゴ、ビジネスモデルが決定した。
- ③ ACE の児童労働に関する専門性が評価され、企業からの相談が増えた。

(3) 活動報告

- ① ACE 支援地域のカカオ、コットンを使った商品の製品化の継続
 - ・ 「スマイル・ガーナ・プロジェクト」実施地域で生産されたカカオを使った、森永製菓の国際フェアトレード認証付きチョコレートを通年販売が継続した。店舗での販売が終了し、森永製菓のオンラインショップと ACE のオンラインショップでの販売となった。情報発信の取り組みとして、1 チョコ for 1 スマイルキャンペーンのエコプロダクツ展への出展に協力した。さらに、社内理解の浸透のための勉強会にて、これまでの活動の報告を行った。
 - ・ 2016 年 3 月にガーナ支援産カカオ豆の日本への輸入が実現した。このカカオ豆を使ったチョコレートの第一弾として、ショコラティエ パレド オール三枝俊介氏とのコラボレーションによるチョコレートをカイラシュ氏来日に合わせて製作し、パーティでのお土産に使用した。また、ビントゥバーのタブレットチョコレートを 5 月より先行販売した。
 - ・ カカオの輸入商社の立花商店がガーナ支援地域のカカオ豆を使ったチョコレートを開発、販売するにあたり、パッケージの作成等に協力した。
 - ・ 「ピース・インド・プロジェクト」実施地域で生産されたコットンを使った製品の商品化に関して、2015 年度内に商品化をめざしていたが、現地での調達計画に変更が生じ実現には至らなかった。商品化の際の販売、ビジネスモデルの構築について協議・決定した。
 - ・ 「ピース・インド・コットン」プロジェクトを進めるにあたり、現地パートナー団体と連携企業現地法人の間の連絡・関係構築の補佐を行った。
 - ・ 「ピース・インド・コットン」を使用した高校家庭科の教材開発に向けて、関係企業との協議を開始した。
- ② ACE 支援地域の原料利用のビジネスモデル検討
 - ・ ガーナのプロジェクト実施地で生産された「児童労働のない」カカオについて、今後の展開について協議、議論をした。ロゴ等の制作にまでは至らなかったため、次年度も継続して取り組んでい

く。

- ・今年度はじめて輸入されたガーナ支源地産のカカオ豆を使ったコラボレーション商品の実現にあたり、「チャイルドレーバーフリーカカオ」の名称を使用していくことや用語の定義を決定した。
- ・プロジェクト実施地域で栽培された児童労働のないコットン「ピース・インド・コットン」に関して連携企業との協議を行い、「ピース・インド・コットン」ブランドのロゴが完成、商標登録が完了した。また、コットンとロゴを使用した商品の売上の一部がライセンス料として ACE へ支払われるビジネスモデルが決定した。

③ エシカルなビジネスと消費の推進

- ・「このTシャツはどこからくるの？」のワークショップをルミネなど企業2件で実施した。
- ・「オーストラリアのエシカル消費最前線～ITを活用したエシカルファッション推進事例～」を認定NPO法人環境市民との共催で実施した。
- ・Textile Exchange、Global Organic Textile Standard、Control Union Japanとの共催で「Textile Exchange JAPAN DAY」を実施し、繊維業界でのエシカルなビジネスへの取り組みを啓発、促進した。
- ・日本エシカル推進協議会主催のエシカル朝食会に5回参加し、情報収集やネットワーキングに取り組んだ(6回開催)。
- ・消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークに参画し、会議への参加、企業の通知簿(仮)の作成を行った。
- ・企業からの依頼を受け、原稿執筆を2件行った。(イースクエア、協進印刷)
- ・ビジネスと児童労働やCSRに関するテーマで、全日本空輸などの企業に7件の講師派遣を行った。

④ その他

- ・サプライチェーンの児童労働に関する企業からの問い合わせを3件受け、コンサルティングの提案を行った。うち企業2社が法人会員となった。
- ・CSRレビューフォーラムとグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのステークホルダーエンゲージメント分科会にレビュアーとして参加した。
- ・2016年10月実施の企業向けインド支源地スタディーツアーに向けて準備、広報を行った。
- ・養殖水産物のサステナブル認証であるASCの認証審査における労働・人権分野の審査を受託し、2月に宮城県南三陸町のカキ養殖地域にて審査を実施した。
- ・吉川帽子の依頼により、「ピース・インドプロジェクト」支源地の職業訓練を受けた女の子たちが刺繍を施した帽子の制作補佐、コーディネートを行った。
- ・住友商事の「東日本再生ユース・チャレンジプログラム」に選考委員として参加。審査を行ったほか、中間報告会でのシンポジウムのコーディネーターを務めた。
- ・電通が社会貢献活動の一環としてNPOと共に取り組んでいるNPO広報力向上委員会にメンバーとして参加。「伝えるコツ」セミナーなどの企画を行った。
- ・労働、人権を主な対象分野とした国際認証規格「SA8000」の社会監査ベーシックコースの研修にスタッフ1名が参加した。

(4) 活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	ACE 単体で実施予定だったものについてはほぼ予定通り実施した。カカオ、コットンのビジネスモデル検討も進展があったが、商品化などについては連携企業の状況などにも左右されるため、想定通りに進まない状況もあった。カキ養殖の ASC 認証審査、Textile Exchange のセミナー開催などの外部からの比較的急な協力依頼についても対応することができた。	3
目標達成度 (目標値や実績をはかる指標がどの程度達成できたか。)	支援地産カカオ豆の日本への輸入が実現し、ショコラティエ パレドオール三枝シェフによるビントゥーバーチョコレートの販売が決定し、「児童労働のない」商品を増やすことができた。コットンについても、ブランドのロゴ、ビジネスモデルの決定の前進があった。	3
予算達成度・ 効率性 (収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)	法人会員は新規獲得が目標に達しない見込みとなり、補正予算で下方修正をした。講師派遣、原稿執筆やその他の依頼に関する収入については、予算を達成することができた。	4
発展効果度 (将来的な発展や他事業への波及効果はどの程度であったか。)	「ピース・インド・コットン」については、コットン農家と連携企業との信頼関係が醸成されたことが今後の発展につながると期待される。支援地産のコットンの使用について、関心を示している企業も複数あり、今後の広がりが期待できる。支援地産カカオについても、カカオ豆の状態では初めて日本に輸入され進展があった。今後カカオを使用する企業の増加を ACE としても促進したい。サプライチェーンの児童労働に関しては企業からの問い合わせが増加してきており、次年度につながる提案を行うことができた。	4
総合評価 (今年度の活動によって、事業の目的にどれだけ近付けたか。)	カカオ、コットンとも ACE 支援地の原料を使った商品開発に向けて着実な前進がみられた。一方で、森永製菓のフェアトレードチョコレートは前年度は実店舗での販売を達成したが、今年度はオンラインでの販売となってしまった。「ピース・インド・コットン」についても、商品開発と販売が当初の計画より遅れてしまった。いずれも ACE ではコントロールしきれないものではあるが、戦略的に連携を継続、発展できるようにしたい。また、カカオ、コットンの原料を扱うその他企業への講師派遣、情報提供や提案などを行い、取り組みを業界内に広げるといった観点において前進があった。	3

(5段階評価 5：120%～101%、4：100%～81%、3：80%～61%、2：60%～41%、1：40%以下)

5. カイラシュ・サティヤルティ氏招へい事業

事業の目的：2014年ノーベル平和賞を受賞した、児童労働に反対するグローバルマーチ創設者のカイラシュ・サティヤルティ氏を日本に招へいし、一連のプログラムを通じ市民、政府、企業の児童労働解決に向けた「政治的意志」を高める。

(1) 方針

本事業は、SDGsの目標8.7の児童労働に関する目標達成に向け、次の3つを目的とした。

- ① 児童労働について広く啓発し、この問題への関心を高めると同時に支援行動を促す。
- ② 児童労働問題解決について、政府やビジネスセクターを巻き込み、それぞれのコミットメント意識を高める。
- ③ 国際的な人的ネットワークを強化する。

(2) 主な成果

- ① 児童労働に対する認知を高めることができた

本事業では、4日間で8つのイベントを実施し、計2,192人以上が参加した。また、テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアによって約53件報道、掲載され、イベント参加者以外の多くの人たちにも児童労働の問題について伝えることができた。

- ② 政府、ビジネスセクターなどの重要なステークホルダーが、児童労働解決に向けた「政治的意志」を高めることに貢献した

幅広い層にアプローチすることができ、政治家、企業、市民（消費者）など、それぞれのステークホルダーに対して、児童労働問題の解決のために行動を起こしていくことの大切さを伝えることができた。円卓会議においては、海外からのゲストに加え、外務省、厚生労働省、経団連、企業関係者、NGOが一堂に会し、それぞれのステークホルダーが児童労働撤廃のために果たせる役割を議論、確認できた。議員懇談会においても、児童労働や子どもの教育に日本が積極的に取り組むように要望し、参加した議員の中から前向きに取り組んでいきたいとの発言を得ることができた。チャリティパーティには塩崎厚生労働大臣ほか5人の議員が出席し、馳文部科学大臣との面会も実現し、日本が児童労働に取り組むことの重要性を直接伝えることができた。

- ③ グローバルな人的・組織的ネットワークを形成することができた

カイラシュ氏が設立したカイラシュ・サティヤルティ子ども財団（本部：米国）や、児童労働に反対するグローバルマーチ（本部：インド）、児童労働連盟（本部：米国）からの協力を得て円卓会議を実現できた。SDG 8.7の達成には、さらなる国際協調が必要なため、国際的に児童労働問題に中心的に取り組んでいる団体との協力関係を構築できたことは、今後ACEが国際レベルで活動していく上での大きなステップとなった。

(3) 活動報告

- ① 公開シンポジウム『私からはじまる児童労働のない未来』～ノーベル平和賞受賞者カイラシュさんの問題解決の方法とは?～(5月14日、東京都・文京学院大学本郷キャンパス)

カイラシュ氏による基調講演「社会問題の解決策のつくり方」や、パネルトーク「消費者、学生、企業、市民社会が児童労働のない未来にできること」などを実施。来場者は650名以上にのぼり、カイラシュ氏から3つのD「Dream(何かを変えたいなら大きな夢を持とう)、Discover(自らの能力、力を見いだそう)、Do(今から行動を起こそう)」という力強いメッセージが伝えられた。また、都内で行われる唯一の公開イベントとして多くの取材を受け、新聞やテレビで報じられた。

共催：ACE、児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム 児童労働グループ

後援：外務省、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構、ILO駐日事務所、UNDP駐日代表事務所、一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、日本ILO協議会、日本労働組合総連合会

助成：国際交流基金日米センター、公益財団法人庭野平和財団

協力：世界の人びとのためのJICA基金

- ② 「ACEチャリティパーティー ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏来日を記念して」(5月15日、東京都・帝国ホテル)

支援者の方々や、塩崎恭久厚生労働大臣をはじめ与野党の議員、ビジネス界のリーダーなど総勢121名が来場し、華やかな雰囲気の中、カイラシュ氏のノーベル平和賞受賞をお祝いした。また、カイラシュ氏と経営ストラテジスト坂之上洋子氏とのトークや、塩崎大臣のスピーチ、ショコラティエパレード オールの三枝シェフによる支援地産カカオを使ったチョコレートの紹介などが行われ、カイラシュ氏からは「児童労働のない世界」を実現するよう呼びかけられた。大規模なパーティーの実施は初めての試みだったが、多くの方のお力添えのおかげで無事に終えることができた。

協賛企業・個人：株式会社IMAGICATV、有限会社ウエストフィールド・コンサルティング、英会話教室Lesson4U、Ena Communication Inc.、M&Partners International、株式会社神奈川ナブコ、坂之上洋子様、株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント、株式会社立花商店、谷川俊太郎様、Nakajima Consultancy Services LLP、パンローリング株式会社、株式会社ファンドレックス、特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、他(順不同)

- ③ SDGターゲット8.7戦略円卓会議(5月13日、東京都・庭のホテル)

ACE初の英語での国際会議「Roundtable Meeting: Strategies to End Child Labour by 2025(2025年までに児童労働を終焉させる(SDGターゲット8.7)戦略円卓会議)」を開催した。出席者は、カイラシュ氏、カイラシュ・サティヤルティ子ども財団、Child Labor Coalition、児童労働に反対するグローバルマーチ、日本から国際協力機関、政府、企業、労組、NGO、有識者など各分野のステークホルダー18名(その他オブザーバー11名)が参加した。ステークホルダーが一堂に会し、グローバルな視点から児童労働の現状や問題解決に向けた取り組みについて、情報共有や意見交換を行い、目標の達成に向けて共通認識が生まれたことは大きな成果といえる。

主催：ACE 共催：Child Labor Coalition(米国) 助成：国際交流基金日米センター

- ④ G7 倉敷教育大臣会合（5月14日、岡山県） 主催：文部科学省
文部科学省の招きにより G7 倉敷教育大臣会合に先立つ公開シンポジウムでカイラシュ氏が基調講演を行った。教育の機会を奪われた子どもたちを救うために、市民社会、企業、国が連携して問題解決に当たる必要性を訴え、各国の教育大臣に責任を果たすよう求めた。各国大臣からもそれに応えるかたちで意思表示があり、会合の成功に貢献した。
- ⑤ 東日本大震災被災地、宮城県山元町の訪問、子どもたちとの交流（5月15日、宮城県）
東日本大震災の被災地で ACE が支援を行ってきた宮城県山元町を訪ね、被災した小学校の視察とイチゴ農園の訪問、町民との交流イベント「被災地から世界につながろう！親子で描く、これからの社会」を開催した。イベントには子どもからおとなまで約 80 名が参加した。イチゴ農園を経営する GRA 代表岩佐大輝氏との対談では、復興までの道のりや、カイラシュ氏が児童労働の現場から子どもたちを救い出した経験などが語られ、カイラシュ氏と日本の子どもたちとの交流も実現した。
主催：ACE 協力：株式会社 GRA、山元町教育委員会生涯学習課
助成：公益財団法人庭野平和財団
- ⑥ 「宮城学院創立 130 周年記念ホームカミングデー」講演（5月15日、宮城県）
事務局長白木の母校でもある学校法人宮城学院の創立 130 周年を記念したイベントでカイラシュ氏と白木が特別基調講演を行った。卒業生や現役の中高生約 1,000 人が耳を傾けるなか、子どもたちの強制労働の実態を紹介し、解決に向けた行動を呼びかけた。
主催：宮城学院同窓会
- ⑦ 馳浩文部科学大臣との会談（5月16日、東京都）
文部科学省にて馳大臣（当時）とカイラシュ氏の会談が実現し、政府がリーダーシップを発揮して取り組んでいくことの重要性を強調し伝えた。
- ⑧ 逢沢一郎議員の表敬訪問（5月16日、東京都）
逢沢議員は G7 教育相会合が開かれた岡山県選出の議員であり、カイラシュ氏の基調講演の内容を含め、教育相サミットのことは詳しく把握され、難民や虐げられた人々の問題に思いを馳せ救済を模索されており、児童労働の問題を巡っても、カイラシュ氏と思いを共有された。
- ⑨ 議員懇談会（5月16日、東京都・衆議院第二議員会館）
児童労働ネットワーク、教育協力 NGO ネットワークと共催で、「カイラシュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会」を行った。12 名の国会議員を含め 50 名を超える会議となり、カイラシュ氏は「最悪の形態の児童労働をなくすために日本がリーダーシップを発揮してほしい」「サプライチェーンにおける企業の責任を政府主導で提起してほしい」と提言。国政のリーダーに何ができるか考えてもらうきっかけを作るという当初の目的が実現した。
共催：児童労働ネットワーク、教育協力 NGO ネットワーク
協力：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
助成：公益財団法人庭野平和財団

後援：アムネスティ議員連盟、ILO 議員連盟、チャイルドライン支援議員連盟

- ⑩ 「ゲリラシネマ～『THE TRUE COST』特別上映イベント～」壇（5月16日、東京都）
ウェブメディア「Be inspired!」を編集・配信する HEAPS.株式会社主催の映画上映イベントに、カ
イラシュ氏と代表の岩附が登壇した。ACE への寄付となるクラウドファンディングも実施され、お
しゃれに関心の高い 180 名の参加者といっしょに「本当のおしゃれ」について考える機会となった。

主催：HEAPS.株式会社

- ⑪ 「値段のないレストラン」（5月16日東京）
ゲリラシネマと並行して、HEAPS.株式会社が ACE の支援を目的に企画した「値段のないレストラ
ン」が約 100 名の参加者を迎えて開かれた。食事の値段は参加者が自由に決め、その金額が寄付さ
れるというもの。カイラシュ氏と代表の岩附がトークを行い、よりよい未来を創るため多くの方々
と時間と思いを共有することができた。参加者からの多額の寄付が集まり、本事業の実施の資金と
することができた。

主催：HEAPS.株式会社 協力：OrangeOne 株式会社

（４）活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施でき たか。計画の立て方 に問題はなかった か。)	4 日間で 8 つのイベントを実施することができた。シンポジウムに ついては事前に開催を想定して準備を進めていたが、それ以外は 12 月に正式に来日が決まってから 5 月の来日まで賞味 5 か月間の準備 期間であった。大掛かりなパーティー、応援団結成など初めてのもの は特に十分に準備時間がなく想定通りに進められなかったもの もあった。	4
目標達成度 (目標値や実績をは かる指標がどの程度 達成できたか。)	ACE が主催、共催したイベントの参加者は 2,192 人となり、短い期 間の中で多くの方にカイラシュさんと共に児童労働の問題の存在、 個々人の関わりを訴えることができた。また、現政権の 2 人の大臣 との面会が実現し、児童労働に対する理解を促すことができた。一 方で、企業へのアプローチについては、当初想定していたようなイ ンパクトをもたらすことができなかった。	4
予算達成度・ 効率性 (収入、支出、収支 の達成度合い。無駄 なく効率的に予算を 活用できたか。)	本事業は日本国内で実施するひとつのプロジェクトとしては過去最 大規模の 1,600 万円を超える事業費となった。その事業実施や資金 は、HEAPS、OrangeOne などの企業のファンドレイジングへのご 協力、宮城学院・個人の方からの大口寄付、パーティーへの協賛や 助成金など、この事業のために調達した資金や参加費で賄うことが できた。また、キャッシュフローの不足が予想されたため、融資を 受けて実施するという、新しい試みも行った。	4

<p>発展効果度 (将来的な発展や他 事業への波及効果は どの程度であった か。)</p>	<p>カイラシュ氏来日中に面会した2人の大臣へ、児童労働ネットワークの署名を提出できたことなど、政策提言への波及効果が大変大きかった。また、カイラシュ氏にフォーカスが当たるものがほとんどだったものの、メディアでの報道も多数に上り、児童労働の世論喚起につながった。またこれを機に協力者を通じて様々な人脈ができたことも、今後の波及効果が期待できる。さらに、カイラシュ氏やその団体との関係性が一層強まり、今後の連携強化が期待できる。一方で、ACEの支援者増加の効果は期待していたほど得られなかった。</p>	<p>5</p>
<p>総合評価 (今年度の活動によ って、事業の目的に どれだけ近付けた か。)</p>	<p>多くの方に多大なご協力・ご支援をいただき、当初の目標をほぼ達成できた。カイラシュ氏の来日により、メディアを通じて児童労働の周知が進んだことと、政治家と関係ができたことはACEの今後の活動に貢献できる。</p>	<p>4</p>

(5段階評価 5:120%~101%、4:100%~81%、3:80%~61%、2:60%~41%、1:40%以下)

6.組織運営

事業の目的：各事業が円滑に行えるよう、人的、財政的基盤の強化を図り、管理する。

(1) 方針

- ① 出産や子育て、介護など職員のライフステージの変化に合わせて、柔軟に安心して働けるよう、在宅勤務を取り入れて、サーバーのクラウド化など働きやすい環境を整備する。
- ② 財務については、キャッシュフローを安定させ、為替変動の悪影響を最小化することに努め、1～2%の当期正味財産増をめざす。
- ③ 2013-2015年の中期戦略の最終年度を迎え、達成に向けた取り組みを強化する。次期中期戦略の策定に取りかかる。

(2) 主な成果

- ① これまでの取り組みが評価され、「日経ソーシャルイニシアチブ大賞 国際部門賞」「JANIC 組織強化大賞 女性スタッフの登用・活躍部門賞」「アユス NGO 新人賞」を受賞。
- ② サーバーをクラウド化するため Office365 を導入し、在宅勤務制度を本格的にスタートさせた。通勤時間の削減や家事・育児との両立など、各職員のニーズに合わせた働き方を実現。各個人のワークライフバランスの向上や、安心して働ける環境を整えることで、災害時等の事業の継続性も高めることができた。
- ③ 財務については、外貨口座を開設し米ドルでの資金調達も含め為替変動の悪影響を最小化することに努めた。また、カイラシュ氏招へい事業にあたり融資を受けキャッシュフローの安定化を図った。資金調達については、助成金を（各賞を含む）も 27 件申請（うち 4 件は前年度中に申請）し、過去最高の 1,266 万円獲得した。

(3) 活動報告

① 会議等の業務

1-1 通常総会の開催

年 1 回の通常総会を開催し、前年度の事業、決算報告と役員承認を得、新年度の事業、予算計画について報告した。（日時：2015 年 11 月 21 日（土） 会場：U A ゼンセン会議室）

1-2 理事会の開催

ACE 事務所会議室にて 7 回理事会を開催し、財政状況を含む組織運営について協議、決定した。（11/21、12/19、2/14、4/17、6/18、7/23、8/21）

1-3 評議員会の開催

カイラシュ氏招へい事業について、活用方法や資金調達、児童労働の世論喚起など、評議員よりアドバイスもらった。（日時 2015 年 3 月 19 日（土） 会場：ACE 事務所会議室）

② 会員、サポーター、支援者業務

- ・ 会員、マンスリーサポーターの入会、退会等に伴う業務を行い、会員継続に関する連絡は 8 月に

行った。

- ・ 年次報告書の発行が大幅に遅れ 8 月に発行した。活動レポートは 10 月、2 月、7 月に発行し、支援者に送付した。カイラシュ氏招へい事業特別レポートも発行し、過去の支援者も含めて送付した。
- ・ 各事業、及びキャンペーン等を通じて、新しい支援者層の拡大、獲得に取り組んだ。
＜会員数＞正会員 142 名（新規 14 名、退会 14 名、増減 0）
賛助会員 75 名（新規 3 名、退会 14 名、増減 -11）
法人賛助会員 27 社・団体（新規 4 社、退会 1 社、増減 +3）
＜寄付者＞マンスリーサポーター 432 名（新規 39 名、退会 26 名、増減 +7 名）
単発寄付 個人 のべ 324 名（うちクラウドファンディング 199 名）
法人 のべ 62 社・団体（うちクラウドファンディング 1 社）

③ 財務、資金調達

事業実施や組織運営に必要な資金を確保するため、下記を実施した。

- ・ 収入は前年度比約 1,500 万円の増額となり、寄付額も過去最高を更新した。正味財産については補正予算を組み減少の予定だったが、最終的には 276 万円当期正味財産増となった。
- ・ 助成金を（各賞を含む）も 27 件に申請（うち 4 件は前年度中に申請）し、過去最高の 11 件 1,266 万円を獲得した。
- ・ JapanGiving にて「夢も、希望も、命も奪う。そんな児童労働から子どもを救いたい！」プロジェクトを実施。目標 300 万円に対して、342 万円を達成することができた。
- ・ 西武信金の融資「Change」500 万円を受けた。2016 年度より返済を開始する。
- ・ 為替変動の悪影響を最小化するため、外貨口座を開設し米ドルでの資金調達も行った。
- ・ カイラシュ氏招へい事業の実施を踏まえ、補正予算を策定した。その際に法定福利費の計上漏れがあったため再度補正予算の修正を行った。
- ・ 毎月ファンドレイズミーティングを行い、方針の決定や、取り組みの進捗を確認した。

④ 経理、人事・労務、総務に関わる業務

4-1 経理業務

- ・ 日常的な現預金の動きについて記録、管理し、資金の動きを明確にした。
- ・ 法人税や消費税等の税務関連の業務を行い、10 月末までに税務署への申告を完了した。
- ・ NPO サポートセンターの財務研修を受け、課題の把握やセールスフォースを使った寄付や助成金の予算・実績を管理するツールを新たに作成した。（12～2 月、計 4 回）

4-2 人事、労務業務

- ・ 4 月より事務局長が育児休暇から復帰、事務局次長 1 名昇格、フルタイム職員 1 名退職、パートタイム職員 1 名と契約職員 1 名を採用。業務委託 3 名と契約、インターン 5 名採用。予定していたファンドレイズ担当のパートタイム職員の採用は見送った。
職員数（期末時点）：フルタイム職員 7 名、パートタイム職員 3 名、契約職員 1 名
- ・ リクルートの Business to Social Project に参加し、リクナビでの採用活動を行った。
- ・ ワークライフバランス改善を目的とした産業医の個別面談と社内検討会を 1 月に行った。
- ・ 職員の働き方やワークライフバランスのニーズを把握するため、ワークプランシートを導入。全職員との個別面談を行った。

- ・在宅勤務制度を本格的に導入し、職員のニーズに合わせた柔軟な働き方ができる環境を整備。5名が在宅勤務を利用した。Office365を導入し、事務所内のサーバーに保管していた情報をクラウド上に移行するなど、情報共有、コミュニケーションの促進にも取り組んだ。

4-3 総務業務

- ・東京都、国税局、法務局（11月）に必要な届出を行った。
- ・適切な書類や備品の管理を行い、コストの削減や仕組みの改善などに取り組んだ。

⑤ 組織強化、職員の能力強化

- ・各職員のニーズに応じて能力強化のための外部研修への参加や組織内での学習機会を設けた。
外部研修：グローバルアンバサダープログラム、管理職研修、財務研修、Dreamforce2015、SA8000、PCM研修、コミュニティファシリテーション研修
組織内研修：テレワーク研修、カタリバ2回（1/18、7/21）
- ・チームビルディングや、事業戦略や活動方針について議論する合宿は、カイヤシュ氏招へい事業の準備時期と重なったため開催を見送った。
- ・「2025年までに世界の児童労働をなくす」ことを実現することをめざした新しい中期戦略を検討するための幹部会議を4回行った（12月、3月、6月、7月）。

（4）活動評価

評価項目 (評価項目の説明)	評価内容	5段階 評価
計画実施度 (計画通り実施できたか。計画の立て方に問題はなかったか。)	年度途中でカイヤシュ氏招へい事業の実施が決定したが、多くの方の支援とスタッフのチーム力により、成功裡に実行することができた。一方、マンスリーサポーターの獲得は、効果的な施策を打てず、途中一時的な寄付獲得（クラウドファンディング等）に方針が変更したこともあり、目標100名のところ39名となった。年次報告書の発行も大幅に遅れてしまった。	3
目標達成度 (目標値や実績をはかる指標がどの程度達成できたか。)	事務局長の育児休暇延長と常勤職員1名の退職があったが、新規職員の採用や業務調整を行い、新しい人員体制のもとスムーズな事業、組織運営ができた。財務についても、融資や外貨口座の開設など様々な施策を進めることができた。	4
予算達成度・ 効率性 (収入、支出、収支の達成度合い。無駄なく効率的に予算を活用できたか。)	収入については、前年度比約1,500万円の増加となったが、当初予算は達成したものの、補正予算は達成できなかった。カイヤシュ氏招へい事業を独立した事業として実施することになり、補正予算を作成した。補正予算の策定の際に計上もれがあり、再度修正することとなったため、同様の誤りが起こらないように気をつける。	3
発展効果度 (将来的な発展や他	グローバルアンバサダープログラムの参加を通じて得た人脈や注目により、組織の戦略策定やカイヤシュ氏招へい事業の実行にも大きな波及効果があった。日経ソーシャルイニシアチブ大賞国際部門賞	5

<p>事業への波及効果はどの程度であったか。)</p>	<p>の受賞は、認知度や信頼性の向上につながる事が期待できる。Office365 や在宅勤務を導入したことで、職員のニーズに合わせた働き方を実現でき、安心して長く働ける環境ができた。今後の活用によりさらなる発展が見込まれる。</p>	
<p>総合評価 (今年度の活動によって、事業の目的にどれだけ近付けたか。)</p>	<p>フルタイム職員の退職と事務局長の育児休暇の延長があったにも関わらず、新しい職員とともにスムーズな組織運営を行い、カイラシユ氏招へいという大きな事業を強いチームワークを持って成し遂げることができた。 また、各職員の働き方やワークライフバランスのニーズに応え、安心して働ける環境を整えた。</p>	<p>4</p>

(5段階評価 5：120%～101%、4：100%～81%、3：80%～61%、2：60%～41%、1：40%以下)

7. 活動一覧と指標

子ども支援事業			
活動	内容	指標	実績
「スマイル・ガーナプロジェクト」の実施	ガーナ、アシャンティ州アチュマ・ンブニユア郡タノ地区・カロンゴ、ジュレソ、タノドゥマセ、ンスオテムの4村(2014年9月から継続実施)	・学用品を支給して就学を支援した子ども20人、支援によって新たに就学した子ども20人、学齢期の子どものうち、就学している子ども2,000人、互助会に入った親20人、カカオ農業訓練を受けた親100人	・学用品を支給して就学を支援した子ども33人(151%) ・支援によって新たに就学した子ども14人(70%) ・義務教育年齢の子どものうち、就学している子ども1,866人(93%) ・互助会に入った親19人(95%) ・カカオ農業訓練を受けた親42人(42%)
「ピース・インドプロジェクト」の実施	インド テランガナ州マハブブナガル県マルダカル地区・マッデラバンダ村及びタティクンタ村(2014年4月から実施継続)	・労働をやめて基礎教育を受けた子ども50人、正規の学校へ新たに就学した子ども100人、学齢期の子ども継続的な就学1,200人	・労働をやめて基礎教育を受けた子ども211人(211%) ・支援によって新たに正規の学校へ就学した子どもの数116人(116%) ・義務教育年齢の子どもうち、就学している子ども1,322人(110%) ・職業訓練を受けた子ども80人(100%) ・収入向上に取りくむ親18人(55%)
	ナガルドーディ村(2015年6月でフォローアップを終了)	・労働をやめて基礎教育を受けた子ども0人、学齢期の子ども就学530人 ・成果報告書の完成3,000部	・労働をやめて基礎教育を受けた子ども0人、学齢期の子ども就学530人⇒維持 ・成果報告書の作成⇒次年度に延期
新しく取りくむ児童労働の情報収集・ネットワークワーキング	・新たに取りくむ児童労働の分野・産業・地域についての情報収集、選定基準の作成 ・日本の子どもの貧困における児童労働などの子ども権	・他分野の児童労働に関する情報源の特定・収集 ・選定基準の作成 ・子どもの貧困に関する情報源の特定・収集・整理 ・他団体との関係構築	・日本の児童労働と子どもの貧困に関する調査の企画書を作成、調査資金を獲得 ・勉強会等5件参加 ・他団体7件訪問、アドバイザー4組決定

	利侵害の状況や対策について情報収集、関連組織との関係構築		
子ども支援事業の実施体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ACE 及びパートナー団体のスタッフ間のノウハウ共有、実施管理・報告業務の徹底 ・ 国際協力ガイドラインの改訂 ・ JICA 申請にむけた情報収集等準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施管理・モニタリングでの活用データ・資料のマニュアル化 ・ 評価マニュアル含む国際協力ガイドラインの改定版の完成 ・ 情報収集・書類準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修参加 3 名、5 件 ・ モニタリング計画書/報告書、継続的に活用開始 ・ 参加型評価マニュアル完成 ・ JICA 申請準備継続中

アドボカシー事業			
活動	内容	指標	実績
アドボカシー戦略の策定	①2015 年国連総会 (SDGs サミット)への参加と情報収集、関係団体とのネットワークワーキング	2016 年 12 月までに ACE アドボカシー戦略を策定する	SDGs サミットに参加し、関係団体とのネットワークを構築した
	②児童労働に関する取り組み調査とネットワーク活動、アドボカシー戦略の策定		EU 連合、米国大使館等ネットワークが広がったが、戦略の策定には至らなかった
事業活動の広報	①メディアに対する情報発信	主要全国メディア (テレビ、ラジオ、雑誌、全国紙) に 15 件	主要全国メディア掲載 27 件 (総数は 108 件) 内訳: テレビ 4、ラジオ 1、雑誌 5、新聞 17)
	②インターネットを通じた情報発信 ウェブサイトに掲載するコンテンツの質の改善、遷移率の向上	ユニークユーザー: 26 万 資料請求件数: 70 件 (前年度 53 件)	ユニークユーザー: 245,141 資料請求: 43 件
	③印刷物を通じた情報発信	資料請求キット内容の見直し	実施せず
児童労働の撤廃に向けた政策提言活動	①市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can)を通じたアフリカ政府に対する提言活動	TICAD VIの宣言文書に児童労働に関する記述がされる	児童労働に関する記述はなされなかったが、サイドイベントで発表を行うことができた

	②児童労働に反対するグローバルマーチ」との連携	グローバルマーチを通じ、児童労働撤廃に関する ACE の支援モデルを発信する	恒常的なコミュニケーションが確立された
	③児童労働ネットワークを通じた 児童労働問題に対する世論喚起と日本政府への働きかけ	CL-Net キャンペーン 参加人数：1 万人 署名提出筆数：60 万	1 万 1,295 人(レッドカード+1 アクション参加者：9,431 人、賛同イベント参加者：1,864 人) ※署名活動は実施せず
	①日本の子どもの貧困、権利、エシカル消費に関する調査研究活動	関連ネットワークへの参加	関連団体訪問、ヒアリング、セミナー参加等の情報収集を行った
児童労働問題に関する理解を促進させるための啓発活動	①講演活動	件数：80 件 7,000 人 (前年度 79 件 6,168 人)	件数：76 件、8,577 人
	②映画『バレンタイン一揆』の 字幕挿入・DVD 化	2015 年 12 月の販売開始 学校向け：30 件 一般向け：60 件	2016 年 2 月に販売開始 学校向けのみ：63 件 映画上映会：26 件（映画上映のみ 20 件、映画+講演会 6 件）
	③フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの支援地訪問と写真展開催	支援地訪問の実現と、写真展の開催	エボラ出血熱の影響を受け実施見送りとなった
	④市民や学校での取り組みを促すための事例収集システムの構築	事例紹介+投稿システムをウェブサイト に運用を開始	助成金が獲得できず実施を見送った
	⑤教材の貸出	貸出件数：15 件 対象人数：1500 人	貸出件数：16 件 対象人数：4,823 人
	⑥教材「おいしいチョコレートの真実」、「チョコっと世界をのぞいてみよう」の販売	教材販売： 「おいしいチョコレートの真実」：75 部 「チョコっと世界をのぞいてみよう」：88 部	教材販売： 「おいしいチョコレートの真実」： 179 部 「チョコっと世界をのぞいてみよう」：138 部
コットン生産地域の持続的な環境改善に向けた啓発・提言活動(地球環境基	①ワークショップ、啓発イベント等の実施	全国各地でのワークショップを年間 10 回 コットン関連のイベントを年 1 回	ワークショップ実施： 12 回 455 人参加 イベント：2 回実施 参加人数：のべ 574 人

金助成事業)		参加人数:のべ 500 人	
	②教材「この T シャツはどこからくるの」の普及とファシリテーターの育成	教材販売： ・100 件 研修：30 名 リーフレットの作成、配布：10,000 部配布	教材販売：170 部 研修：29 名参加 リーフレットの作成、配布：20,000 部作成、約 5,500 部配布
	③現地視察ツアー実施のための現地調整等の準備	ツアー開催の準備	2016 年 10 月のツアー開催に向けて準備、広報を行った

啓発・市民参加事業			
活動	内容	指標	実績
主催イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人化 10 周年イベント（11 月、総会と同日開催） 活動報告会（インド 5 月、ガーナ 1-2 月） ・チャリティフットサル大会（調整中） ・ゲストセミナー「これからの私たち」（12 月、4 月） 	イベント参加人数：400 人	イベント参加人数：122 人、32% （イベント 2 件未実施。修正目標 110 名に対しては、達成率 111%）
グッズ販売を通じた啓発、参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレート（「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」、PeopleTree フェアトレードチョコレート、森永チョコレート<1 チョコ for 1 スマイル>等）の販売 ・支援地産コットン（PIC）関連商品の販売 ・その他新商品の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・「てんとう虫チョコ」販売個数：20,500 パック ・「てんとう虫チョコ」以外の売上：前年度比 165% ・販売協力法人数：100 ・オンラインショップ購入者数：1000 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・てんとう虫チョコ販売個数：16,231 パック ・てんとう虫チョコ以外の売上：前年度比 109% ・協力法人数：118 ・オンラインショップ購入者数：752 人
イベント出展、ボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域グループ・支援者グループが活動を継続・発展させている ・ボランティア（特に企業、労働組合等組織単位の参 	活動地域・グループ数：7（仙台、名古屋、大阪、福岡、葛西、社会人、PeACE）	活動地域・グループ数：4（仙台、名古屋、大阪、福岡） ボランティア人数：443

	加を増やす)	ボランティア人数： 400人	人（10法人が法人単位 で参加）
児童労働をなくす アクションの担い 手を増やすための 活動	・会員、マンスリーサポーター、一時寄付者等、支援者の獲得 ・潜在的支援者の分析、指標の決定、施策の検討	個人支援者数（会員、MS、一時寄付）：1,000人 マンスリーサポーター：新規100人（純増80人） 協働法人数：2,100法人（直接300+ネットワークを通じて1,800）	個人支援者数（会員、MS、一時寄付）：973人 マンスリーサポーター：新規39人（純増74人） 協働法人数：2,373
ネットワーク活動	NGO 労組-国際協働フォーラムの合同企画委員、課題別グループ「児童労働グループ」の事務局	合同企画委員会：4回 全体会：1回 児童労働グループミーティング：6回程度	合同企画委員会：4回 全体会：1回 児童労働グループミーティング：6回 シンポジウムタスクミーティング：6回

ソーシャルビジネス推進事業			
活動	内容	指標	実績
ACE 支援地域のカカオ、コットンを使った商品の製品化の継続	①カカオ（ガーナ、アシャンティ州産） ・森永製菓の森永フェアトレードチョコレートの販売継続 ・森永製菓との取り組みを発展させ、流通量の増加や新商品発売などを狙う ②コットン（インド、テランガナ州産） ・企業との連携による商品の開発	①カカオ ・出荷枚数の増加 ・取扱店舗数の増加 ・新商品の数：1 ②コットン ・商品数：2 ・取扱店舗数：3	①カカオ ・2社商品数2点 ・取扱店舗数4店舗 ・新商品：1アイテム ②コットン ・商品数：0 ・取扱店舗数0
ACE 支援地域の原料利用のビジネスモデル検討	・ビジネスモデルの検討、立案、試行 ・共通ブランドロゴの作成 ・プレスリリース、発表 ・商品の発売	ロゴ：完成 ロゴ利用規定：完成 プレスリリース：2 商品発売数：2	ロゴ：ピース・インド・コットンのロゴが完成 プレスリリース：0 商品販売数：0
エシカルなビジネスと消費の推進	①「Tシャツはどこからくるの？」企業向けWSの実	①企業向け実施数：1件	①WS実施2件 ②提言文書提出0回

	<p>施</p> <p>②日本エシカル推進協議会 他ネットワークを通じた 政策提言</p> <p>③持続可能な消費・グリー ンコンシューマー全国ネ ットワークへの参画</p> <p>④原稿執筆・講師派遣(依頼 ベース)</p>	<p>②提言文書提出 1 回</p> <p>③会議 2 回参加</p> <p>④計 5 件</p>	<p>③会議 1 回参加</p> <p>④講師派遣 7 件、原稿 2 件：計 9 件</p>
その他	<p>CSR レビューフォーラムの レビュー参加(国連グローバ ルコンパクト、NEC) 企業内ワークショップ</p>	<p>レビュー参加回数：3 回</p>	<p>・レビュー参加 2 回</p>

カイラシュ氏招へい事業

活動	内容	指標	実績
<p>①公開シンポジウ ム</p> <p>②チャリティパー ティー</p> <p>③SDG ターゲット 8.7 戦略円卓会議</p> <p>④G7 倉敷教育大臣 会合</p> <p>⑤被災地宮城県山 元町訪問</p> <p>⑥宮城学院</p> <p>⑦議員懇談会</p> <p>⑧ゲリラシネマ</p> <p>⑨値段のないレス トラン</p>	<p>・児童労働について広く啓 発し、この問題への関心 を高めると同時に支援行 動を促す</p> <p>・児童労働問題解決につい て、政府やビジネスセク ターを巻き込み、それぞ れのコミットメント意識 を高める。</p> <p>・国際的な人的ネットワー クを強化する</p>	<p>・各イベントや会議の 参加者数</p> <p>・メディア掲載件数</p>	<p>・参加者数 合計 2192 名 内訳： ①シンポジウム 63 ②パーティ 121 ③Roundtable 29 ⑤山元町 80 ⑥宮城学院 1000 ⑦議員懇談会 53 ⑧ゲリラシネマ 180 ⑨値段のないレスト ラン 99</p> <p>・メディア掲載件数 合計 53 件 (内訳：ウェブサイト： 31、新聞：15、テレビ： 2、雑誌：5 件)</p>

組織運営

活動	内容	指標	実績
会議等の開催	<ul style="list-style-type: none"> ①総会（11/21、東京） ②理事会（10、11、12、2、4、7、8月） ③評議員会（3月） ④事務局ミーティング（毎月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ①総会 1回 ②理事会 7回 ③評議員会 1回 ④事務局ミーティング 12回 	<ul style="list-style-type: none"> ①総会 1回 ②理事会 7回 ③評議員会 1回 ④事務局ミーティング 11回
会員、サポーター、支援者業務	<ul style="list-style-type: none"> ・会員、マンスリーサポーターの入会、継続、退会等に伴う手続きと分析 ・セールスフォース ドリームフォース 2015（9月）やユーザ会に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員継続に関する連絡、マンスリーサポーター領収書発行を遅滞なく実施 ・会員、マンスリーサポーターの分析、指標の決定、施策の検討 	支援者数 <ul style="list-style-type: none"> ・正会員 142名（増減0） ・賛助会員 75名（増減-11） ・法人賛助会員 27社・団体（増減+3） ・マンスリーサポーター 432名（増減+7） ・単発寄付者 個人のみ 324名、法人のみ 62社・団体
団体広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書（12月）、活動レポート（年3回12、3、7月）の発行 ・ACE や登録団体のウェブサイト更新（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発行部数： 年次報告書 3,000部 活動レポート 2,000部 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書 2014 8月発行 2500部 ・活動レポート 3回発行 各 2500部 ・カイヤッシュ招へい事業レポート 2000部 合計 7000部
人事・労務、経理、総務に関わる業務	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの改善と業務の効率化 ・担当業務の見直しや調整 ・在宅勤務の運用 ・工数管理等の勤務システムの活用 ・業務改善やマニュアルの整備 ・新規アルバイトスタッフの採用 ・管理費の見直しとコスト削減 ・人事制度、給与体系等の整備、見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務の実施 ・サーバーのクラウド化実施 ・残業時間前年度比 5%削減 ・アルバイト採用：1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務利用者スタッフ 5名、インターン 1名 ・残業時間前年度比 6%減（63.75時間減） ・新規採用 パートタイム 2名 業務委託契約 2名

組織強化、職員の 能力強化	①戦略合宿の実施（4月） ②組織内・外の研修に参加 ③カタリバの実施 ④インターンの採用	①戦略合宿1回 ②組織内・外の研修 ③カタリバ6回 ④インターン採用10 名	① 戦略合宿開催見送 り ② 外部研修5名6回 ③ 組織内研修1回 ④ カタリバ2回 ⑤ インターン採用5 名
------------------	---	--	---

<2015年度 役員> ※【】内は役職、()内は、役所届出上の姓

理事 岩附(尾上) 由香 【代表】
理事 小林 裕 【副代表】
理事 白木(馬場) 朋子 【事務局長】
理事 安永 貴夫
理事 新谷 大輔
理事 宮本 聡
理事 丹羽(松本) 真理
監事 矢崎 芽生
監事 大石 貴子

<2015年度 評議員>

秋山 訓子 朝日新聞記者
生駒 芳子 一般社団法人フュートゥラディションワオ 代表理事
江森 孝至 連合総研 主任研究員
小城 武彦 株式会社日本人材機構 代表取締役社長
奥津 雷三 会社員
黒田 かをり 一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事
郷野 晶子 UAゼンセン国際局 局長
坂本 文武 大正大学地域創生学部 准教授
桜田 高明 ILO(国際労働機関)理事、連合 国際顧問・
鈴木 宏二 団体職員
藪田 綾子 株式会社クレアン 代表取締役
長坂 寿久 逗子フェアトレードタウンの会 代表理事
並河 進 電通ソーシャル・デザイン・エンジン 代表
萩原 なつ子 立教大学社会学部21世紀社会デザイン研究科 教授
認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事
長谷川 真一 ILO活動推進日本協議会 専務理事
初岡 昌一郎 姫路獨協大学 名誉教授
樋栄 ひかる Ena Communication Inc. 学びの場のデザイナー
古谷 由紀子 サステナビリティ消費者会議 代表
堀内 光子 公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
元ILO(国際労働機関) 事務局長補
渡邊 智恵子 株式会社アバンティ 代表取締役

<参加しているネットワーク一覧>

1. 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) (メンバー)
2. なくそう！子どもの貧困全国ネットワーク (メンバー)
3. 児童労働ネットワーク (運営委員・事務局)
4. チョコレート・アライアンス (コアメンバー)
5. 市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) (世話人)
6. 社会的責任に関する円卓会議 (運営委員、「地球規模課題への参画」ワーキンググループメンバー)
7. 児童労働に反対するグローバルマーチ (ナショナルコーディネーター)
8. JANIC 広報ワーキンググループ (コアメンバー)
9. 開発教育協会 (DEAR) (会員、評議員)
10. 動く→動かす(会員)
11. NGO-労働組合国際協働フォーラム (合同企画委員、児童労働グループ事務局)
12. NGO 福岡ネットワーク (FUNN)
13. NGO と企業の連携推進ネットワーク (メンバー)
14. CSR レビューフォーラム (レビュアー)
15. 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク (会員)
16. 日本エシカル推進協議会 (設立発起人)
17. 国際協力 NGO センター (JANIC) (正会員)
18. 日本 NPO センター (会員)
19. Salesforce ユーザグループ (NPO 分科会 会長)
20. 消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク
21. 2016 年 G7 サミット市民社会プラットフォーム
22. 倫理法人会 (会員)

<原稿執筆一覧>

【原稿執筆件数】 8 件

依頼元・媒体名	媒体属性	テーマ
日本 NPO センター・知っておきたい NPO のこと 参加編	機関/専門紙誌	エシカル/フェアトレード
株式会社 企画通信社・DARS-NOTE (森永製菓)	広報媒体	キャリア(高校生向け)
消費者教育センター・消費者教育研究 175 号 (3・4 月号)	機関/専門紙誌	人権とビジネス
日本 ILO 協議会「Work & Life」2016 年第 2 号	機関/専門紙誌	SDGs サミット報告
歴史教育者協議会	機関/専門紙誌	児童労働
株式会社オルタナ・CSR 検定 公式テキスト (共著)	書籍	貧困・児童労働
合同出版・人権で世界を変える 30 の方法 (共著)	書籍	児童労働・フェアトレード
消費者教育支援センター・消費者教育研究 177 号 (8・9 月号)	機関/専門紙誌	エシカル/フェアトレード

< 講師派遣実績 >

【講師派遣件数】 76件 8,577人参加

実施日	イベント・セミナー・講演タイトル	主催	都道府県
2015/9/3	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	独立行政法人国民生活センター	神奈川県
2015/9/10	"ようこそ、国際協力の世界へ！国際協力の仕組み YOUPLID～今日からあなたも国際協力プランナー～"	特定非営利活動法人ジーエルエム・インスティテュート	東京都
2015/9/11	私たちの暮らしから考える児童労働	Radixの会（らでいっしゅぼーや）	東京都
2015/9/13	「東日本大震災 X ユースチャレンジ～伝えることから生まれるもの～」	市民社会創造ファンド	宮城県
2015/9/25	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	ルミネ	東京都
2015/9/28	児童労働について考える	福井東ロータリークラブ	福井県
2015/10/3	市民のための環境公開講座 「社会を変えるシゴト」	損保保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部	東京都
2015/10/4	グローバルフェスタ JAPAN2015 「エシカルトーク」	JANIC（グローバルフェスタ）	東京都
2015/10/5	ワークショップ「チョコっと世界をのぞいてみよう」	北海道消費者協会	北海道
2015/10/5	国際理解とフェアトレードについて	神奈川県立氷取沢高等学校	神奈川県
2015/10/20	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	東京都消費生活総合センター	東京都
2015/10/22	映画「バレンタイン－揆」上映会＋講演会	東洋大学	東京都
2015/11/5	ワークショップ「チョコっと世界をのぞいてみよう」	JANIC（SAKAE ソーシャルカレッジ）	東京都
2015/11/6	Fair Finance Guide 1周年記念セミナー	A SEED JAPAN	東京都
2015/11/7	創立50周年記念式典・パーティー「50年後の市民社会～私たちがボランティア・NPOを応援したらこんな未来が拓ける」	社会福祉法人大阪ボランティア協会	大阪府
2015/11/9	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	立川市立 柏小学校	東京都
2015/11/10	インドでの児童労働について	中央大学法学部	神奈川県
2015/11/14	ワークショップ「チョコっと世界をのぞいてみよう」	順天中学校	東京都
2015/11/14	今、子どもの人権を考える～世界で、日本で	日本教職員組合	東京都
2015/11/18	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	独立行政法人国民生活センター	神奈川県

実施日	イベント・セミナー・講演タイトル	主催	都道府県
2015/11/19	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	JANIC (SAKAE ソーシャルカレッジ)	神奈川県
2015/12/2	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	J R東日本 S C フォーラム事務局	東京都
2015/12/5	映画「バレンタイン－揆」上映会+講演会	福井東ロータリークラブ	福井県
2015/12/6	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	河北町国際交流会	山形県
2015/12/7	寄付月間～Giving December～記念シンポジウム「ここから、日本の寄付の新しい時代を開けよう」	寄付月間	東京都
2015/12/10	フェア・トレードがもたらす世界 ～「フェアトレード・チョコ」で“ブッシュ・ド・ノエル”を作ろう！	東京都多摩消費生活センター	東京都
2015/12/11	グローバル企業としてできること/アジアの子どもたちの未来に向けて	全日本空輸 (株)	東京都
2015/12/11	ガーナを中心とした、世界の現状と課題について	横浜市立みなと総合高等学校	神奈川県
2015/12/16	「国際協力フィールドワーク(インド)」～インドのコットン生産地での事例から 児童労働問題について考える～	桜美林大学	東京都
2015/12/16	勤怠システム「チームスピリット」導入事例紹介	NPO サポートセンター	東京都
2015/12/18	グローバル企業としてできること/アジアの子どもたちの未来に向けて	全日本空輸 (株)	千葉県
2015/12/18	児童労働とチョコレート	かながわ湘南ロータリークラブ	神奈川県
2015/12/18	映画「バレンタイン－揆」上映会+講演会	カリタス女子中学高等学校	神奈川県
2015/12/21	国際協力のキャリア形成について	同志社大学	京都
2015/12/24	映画「バレンタイン－揆」上映会+講演会	翔凛中学校・高等学校	千葉県
2016/1/15	ボランティアと NPO	早稲田大学文学学術院	東京都
2016/1/25	ACE と森永のコラボレーションについて	Ideal Leaders 野村証券	東京都
2016/2/2	遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。～児童労働の現状と私たちにできること～	藤沢ロータリークラブ	神奈川県
2016/2/3	A C E 「スマイル・ガーナ プロジェクト」報告	森永製菓	東京都
2016/2/5	映画「バレンタイン－揆」上映会+講演会	ANA 成田エアポートサービス労働組合	千葉県
2016/2/10	1 チョコ for 1 スマイル –あなたが食べると、もう一人がうれしい–	JICA (地球ひろば 森永展示&トーク)	東京都

実施日	イベント・セミナー・講演タイトル	主催	都道府県
2016/2/11	映画「バレンタイン―揆」上映会+講演会	山梨県ボランティア協会	山梨県
2016/2/15	ワークショップ「チョコッと世界をのぞいてみよう」	独立行政法人国民生活センター	神奈川県
2016/2/19	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	台東区くらし相談課	東京都
2016/2/23	「人や社会・環境に配慮したエシカル消費への取り組み」	国民生活センター	東京都
2016/3/3	ワークショップ「チョコッと世界をのぞいてみよう」	東大阪市「市民人権講座」	大阪
2016/3/3	世界の子どもたちのためにできること、エシカルやフェアトレード	東大阪市立東大阪市立弥刀小学校	大阪
2016/3/5	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	北海道教育大学附属函館中学校	北海道
2016/3/7	映画「バレンタイン―揆」上映会+講演会	弘前青年会議所	青森県
2016/3/15	"遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。～児童労働の現状と私たちにできること～"	大和ロータリークラブ	神奈川県
2016/3/18	経営・事業戦略とファンドレイジングの深い話 ～多様な財源をどうマネジメントしていくか～	ファンドレイジング日本	東京都
2016/3/26	ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」	DEAR「教材体験フェスタ2016」	神奈川県
2016/3/28	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	台東区「春休み子ども教室」	東京都
2016/3/29	春の高校生向けイベント「国際協力、国際機関への道」	上智大学	東京都
2016/5/15	「遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを世界の子どもたちに」	宮城学院同窓会	宮城県
2016/5/19	ガーナの実情とフェアトレード	昭島市立瑞雲中学校	東京都
2016/5/20	「児童労働のない未来をめざして」	上智大学外国語学部	東京都
2016/5/26	海外で活躍するNPO	東洋大学社会学部	東京都
2016/6/10	「学校に行かずに働き続ける子供たち ～ガーナ～」	我孫子市立布佐中学校	千葉県
2016/6/14	カカオの児童労働とCSRとサステナビリティ	江崎グリコ	大阪府
2016/6/15	インドのコットン生産地域での児童労働と支援活動について	アレセイア湘南高等学校	神奈川県
2016/6/24	「国際協力と社会貢献」	東京学芸大学附属国際中等学校	東京都

実施日	イベント・セミナー・講演タイトル	主催	都道府県
2016/6/24	「どうして、フェアトレード？ -私たちの身の回りの製品と世界のつながり- 」	立命館高校	大阪
2016/6/25	日本商品学会第 67 回（2016 年度）全国大会シンポジウム	日本商品学会	東京都
2016/6/27	教員向けワークショップ「この T シャツはどこからくるの？」	埼玉県富士市立本郷中学校	埼玉県
2016/7/1	海外で活躍する NPO（英語での講演）	東洋大学社会学部	東京都
2016/7/2	ワークショップ「この T シャツはどこからくるの？」	町田市真光寺中学校	千葉県
2016/7/5	『世界の子どもを児童労働から守る～NPO 法人 ACE の挑戦～』	同志社大学政策学部	京都
2016/7/8	ファンドレイジング・スクール アドバンス研修	日本ファンドレイジング協会	東京都
2016/7/10	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	山梨大学	山梨県
2016/7/16	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	神奈川学園中学・高等学校	神奈川県
2016/7/25	「SDGs の効果的な実施に向けて～各イシューにおける海外・国内での取り組み～」	NGO 労組シンポジウム	東京都
2016/7/28	「女性人"財"の活用～女性がリーダーシップを発揮するために～」	公益財団法人 公益法人協会	東京都
2016/8/2	人権教育の視点から見た児童労働について	本庄市中央小学校	埼玉県
2016/8/27	創立 130 周年記念行事 Global Studies プログラム 「教育の持つ力～未来をつくるということ」	宮城学院中学校高等学校	宮城県
2016/8/28	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	普賢院	青森県

<メディア掲載実績>

【メディア掲載件数】 108

(テレビ 4、ラジオ 5、新聞 24、雑誌：6、機関/専門紙・誌 12、教材 3、ウェブ他 54)

報道日	メディア	タイトル・内容
2015/9/28	共同通信	「本当は遊びたい」、児童労働廃絶険しく
2015/10/1	国際人流	特集 児童労働のない未来へ「世界に伝われ 児童労働にNO！」
2015/10/2	岐阜新聞	児童労働から子どもを守ろう「Tシャツの裏側」にある真実
2015/11/1	ダースノート	未来のじぶんへのヒント
2015/11/9	織研新聞（総合：2面）	エシカル消費セミナー開く
2015/11/26	PRESIDENT WOMAN Online	「私だからできること」は何か？ メンターとの出会いでめざすべき道が見えた瞬間
2015/12/1	わたしは消費者（教員向け消費者教育情報提供誌）	授業改革！生徒の「学び」を「行動」へ
2015/12/6	県民福井	世界の児童労働考える
2015/12/6	福井新聞	児童労働世界からなくせ
2015/12/7	AERA	今、子どもの人権を考える 市民が担う人権意識 具体的な政策提言を
2015/12/9	Conobie	今もどこかで。谷川俊太郎の詩から考える「児童労働」
2016/1/15	さびあ	世界のえご事情 チョコレートの少し苦い話
2016/1/28	KBS 京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」	ほっかほか 嘶の朝ごはん」コーナー
2016/2/1	オルタナ	『義理チョコはあげたつもり』で、チョコ募金を
2016/2/1	TRENDRIPPLE	バレンタインで震災復興を！こんなにあるバレンタイン・チャリティ！
2016/2/4	時事通信	バレンタインで受注増 箱詰め委託し被災地支援も
2016/2/4	共同通信	※掲載新聞、未確認
2016/2/5	エフエム富士「Good Day」	『カラフル5』コーナー（PM3時～）
2016/2/12	日本海テレビ「エブリワン」	「週末おでかけガイド」コーナー 映画『バレンタイン一揆』上映会
2016/2/14	しんぶん赤旗	チョコで減らす「貧困」 原料生産者の生活を応援する「フェアトレード」しませんか
2016/2/14	東京新聞	バレンタイン生産地にも愛を 広がるフェアトレード
2016/2/18	図書館教育ニュース（少年写真新聞）	チョコレートの裏側を知って欲しい カカオ生産地で児童労働をなくす取り組みを行う ACE の活動
2016/2/29	AERA	未来を創る人を育てる S&R 財団再考経営責任者（CEO）兼理事長 久能祐子
2016/4/14	Yahoo!ニュース（Alterna 発 二次配信）	CSR 部発足 多様な生き方を促進

報道日	メディア	タイトル・内容
2016/4/18	Yahoo!ニュース (Alterna 発 二次配信)	「世界一貧しい大統領」に続き「平和の賢人」が相次いで来日
2016/4/20	Work&Life 世界の労働	2025 年の児童労働の終焉に向けた戦略と企業、政府の役割
2016/4/28	朝日新聞デジタル	5 月 16 日 (月) ノーベル平和賞受賞 カイラシュ・サティヤアルティ氏と教育・児童労働を語る会
2016/4/28	朝日新聞デジタル	ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤアルティ氏来日記念公開シンポジウムーノーベル賞受賞後初来日
2016/4/30	読売新聞	児童労働考えるシンポ 来月 14 日、都内
2016/5/6	Yahoo!ニュース	尾崎豊の息子らが登壇 社会派映画上映イベント
2016/5/9	消費者教育研究 4/5 月号 (175 号)	持続可能な開発目標 (SDGs) と消費者ができること
2016/5/10	朝日新聞	児童労働問題でシンポ 14 日 ノーベル平和賞受賞者招き
2016/5/12	山陽新聞デジタル	倉敷で G 7 教育相会合 1 4 日開幕 貧困、テロへの在り方を議論
2016/5/12	ReseMom リセママ	伊勢志摩サミットに合わせ G7 倉敷教育大臣会合開催 5/14・15
2016/5/13	NHK NEWS WEB	ノーベル平和賞のインド活動家 「児童労働撲滅を」
2016/5/13	YOMIURI ONLINE	倉敷 世界にアピール
2016/5/14	NHK 総合 (深夜ニュース 0:00-0:05)	ノーベル平和賞受賞者 児童労働撲滅を訴え
2016/5/14	NHK NEWS WEB	G 7 教育相会合前にシンポ 「教育で世界平和に貢献」
2016/5/14	山陽新聞デジタル	G 7 教育相会合前に倉敷でシンポ ノーベル賞受賞者が基調講演
2016/5/14	神戸新聞 NEXT	教育で貧困やテロの解決を 倉敷で G 7 教育相らがシンポ
2016/5/14	NHK NEWS WEB	ノーベル平和賞受賞者 児童労働撲滅を訴え
2016/5/15	朝日新聞デジタル	岡山) G 7 教育相会合、倉敷で開幕 果たすべき役割議論
2016/5/15	東京新聞	児童労働の製品 身の回りから撲滅を
2016/5/15	東京新聞 (TOKYO Web)	児童労働の製品 身の回りから撲滅を 14 年にノーベル平和賞・サトヤルティさん講演
2016/5/15	東京新聞 (TOKYO Web)	東京新聞サトヤルティさん講演要旨
2016/5/15	中日新聞プラス	児童労働の製品撲滅へ協力を 14 年ノーベル平和賞、サトヤルティさん講演
2016/5/15	YOMIURI ONLINE	< G 7 会合開幕 > 子ども 未来へ導く
2016/5/15	デジタル毎日 (毎日新聞 地方版 - 岡山)	倉敷で開幕 「学校教育へ投資を」 インド活動家・サティヤルティさん基調講演
2016/5/16	河北新報	宮城学院女子大でノーベル平和賞・サティヤルティさん

報道日	メディア	タイトル・内容
		講演 思いやりの心 世界に
2016/5/16	NHK BS1 (世界のトップニュース 7:00-7:50)	世界の児童労働を考える
2016/5/16	教育新聞 電子版サイト	ノーベル平和賞受賞者が講演 困窮の子らに教育投資を
2016/5/16	NHK BS1 キャッチ!	ノーベル平和賞受賞者に聞く～子供たちの明日のために～
2016/5/16	NHK ONLINE (キャッチ! ワールドアイ)	平和賞サティヤルティ氏に聞く"児童労働"
2016/5/16	秀学社 新しい国語のワーク2 (教科書)	読書への招待「小さな労働者」
2016/5/17	りんごラジオスペシャル	5月15日に GRA で行われた 2014 年ノーベル平和賞を受賞しているカイラシュ・サティヤルティさんの講演の模様
2016/5/18	毎日新聞	カイラシュの三つの D
2016/5/18	毎日新聞 ニュース・情報サイト	カイラシュの三つの D=中村秀明
2016/5/18	J-WAVE JAN THE WORLD 「BREAKTHROUGH」	児童労働をテーマにカイラシュ・サティヤルティさんに聞く
2016/5/19	J-WAVE NEWS	「なんでもっと早く来てくれなかったの」児童労働の現実
2016/5/19	NHK ONLINE	エシカル消費って、何?
2016/5/20	Yahoo!ニュース	「音楽を社会のために、父ができなかったことを」 シンガーソングライター尾崎裕哉さん
2016/5/20	Yahoo!ニュース	ノーベル平和賞受賞者のカイラシュ氏、山元町で子供たちの未来を語る (GRA 岩佐大輝との対談イベントにて)
2016/5/22	ganas 開発メディア	消費者の力で児童労働は撲滅できる! ノーベル平和賞受賞者カイラシュ氏が人生を懸ける「3つの運動」とは
2016/5/23	河北新報	生きる力育て インドの活動家対談イベント
2016/5/23	河北新報電子ポータル	生きる力育て インドの活動家対談イベント
2016/5/24	BOOSTAR	このチョコレートの味を彼らは知らない
2016/5/24	女性自身	「あなたの無関心が子供たちの夢見る自由を奪っています」
2016/5/25	毎日小学生新聞	サティヤルティさんのメッセージ/上 学校行けず働く子たち
2016/5/25	毎日小学生新聞 デジタル版	サティヤルティさんのメッセージ/上(その1) 学校行けず働く子たち
2016/5/25	毎日小学生新聞 デジタル版	サティヤルティさんのメッセージ/上(その2止) 一つの国では解決できない
2016/5/26	日本経済新聞	日経ソーシャルイニシアチブ大賞、PWJ など7団体に

報道日	メディア	タイトル・内容
2016/5/26	日本経済新聞 Web 刊	日経ソーシャルイニシアチブ大賞、PWJ など 7 団体に
2016/5/27	毎日小学生新聞	サティヤルティさんのメッセージ／下 差別だけは許せない
2016/5/27	毎日小学生新聞 デジタル版	サティヤルティさんのメッセージ／下 (その 1) 差別だけは許せない
2016/5/27	毎日小学生新聞 デジタル版	サティヤルティさんのメッセージ／下 (その 2 止) 世界はつながっている
2016/5/27	読売新聞 (16 面、くらし 教育)	貧困、過激思想・・・教育で解決
2016/5/27	朝日新聞デジタル	ノーベル平和賞受賞者カイラシュさんが教えてくれたこと ノーベル平和賞受賞者のメッセージから学ぶ
2016/5/29	NewsPicks	カイラシュ・サティヤルティ氏 (1) 8.5 万人の子を強制労働から救い、ノーベル平和賞を受賞した男
2016/5/30	NewsPicks	カイラシュ・サティヤルティ氏 (2) 【ノーベル平和賞・カイラシュ】私がどうしても許せなかったこと
2016/5/31	NewsPicks	カイラシュ・サティヤルティ氏 (3) 【ノーベル平和賞・カイラシュ】教育が人の心に火をつける
2016/6/1	NewsPicks	カイラシュ・サティヤルティ氏 (4) 【最終回】ノーベル平和賞・カイラシュ 将来のビジネスは思いやりと知性が手をつなぐ
2016/6/1	広報やまもと 6 月号(第 439 号)	強い心を持って カイラシュ・サティヤルティさん来町
2016/6/2	東京書籍 新編 新しい国語 2 ワークブック (教科書)	「小さな労働者」 発展 「児童労働の現状と、解決に向けた課題」
2016/6/7	Be inspired!	ノーベル平和賞受賞者カイラシュ氏が説く「3つの“D”の意思」
2016/6/10	毎日新聞 (4 面、ひと)	児童労働の廃絶を訴えるノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティさん(62)
2016/6/10	毎日新聞 ニュース・情報サイト	児童労働の廃絶を訴えるノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティさん(62)
2016/6/15	The Big Issue (Vol.289, 2016 Jun.15)	ノーベル平和賞 カイラシュ・サティヤルティさん 子どもと手、肩、背中ふれ合わせ交流 ― 宮城県山元町 (被災地から<110 回>)
2016/6/19	毎日新聞 ニュース・情報サイト (余録)	「そのこはとおくにいる・・・」
2016/6/23	織研新聞 (1 面)	今求められる持続可能な繊維 [テキスタイル・エクスチェンジが東京でセミナー]
2016/6/23	織研新聞 (2 面)	児童労働問題解決へクラウドファンディング 認定

報道日	メディア	タイトル・内容
		NPO の ACE
2016/6/25	朝日新聞 (be on Saturday)	子どもの権利活動家 カイラシュ・サティヤルティさん (62歳) 児童労働の根絶をめざし闘う
2016/6/27	AERA '16.7.4号 (No.29)	「不可能なことは何もない。我々はみな、勇気を持っている」
2016/6/28	日本経済新聞 (12面、企業)	日経ソーシャルイニシアチブ大賞 ピースウィンズ・ジャパンが大賞
2016/6/30	生涯教育新聞	「世界から児童労働をなくそう！」 ノーベル平和賞受賞者の公開シンポジウム開催
2016/7/1	国際開発ジャーナル JULY 2016 (No.716)	教育改善で児童労働撲滅を
2016/7/8	ウォロ 6・7 2016 (No.507)	具体的にイメージし、心にアンテナを立てて話していくことが、課題の解決につながります。
2016/7/13	日本経済新聞 (29面、特集)	国際部門賞 認定 NPO 法人 ACE 「労働より教育 児童救う」 (日経ソーシャルイニシアチブ大賞)
2016/7/14	alterna August 2016 (45) (月間総務 8月号増刊)	シンガーソングライター 尾崎裕哉さん 音楽で社会貢献 「父超えたい」
2016/7/15	The Asahi Shimbun	Indian children's rights activist works out of love and compassion
2016/7/20	JO 第16号 2016.7.20発行	児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力 NGO「ACE」
2016/7/25	フシギ! 大発見ブック 2016夏・秋 (ベネッセ)	チョコレートで世界が見えてくる!
2016/7/25	MBS ラジオ (毎日放送)	「報道するラジオ」夏休み企画その1 「学校に行けない子どもたち」(20:00-16:52)
2016/7/26	日経 BizGate	日本企業はサプライチェーンで児童労働がないことに努めよ
2016/7/28	日本テレビ (news every. 「タネをまく人」 16:42-16:52)	ノーベル平和賞・サティヤルティ氏×児童労働と闘う
2016/7/31	毎日小学生新聞	しんかん 「とりがおしえてくれたこと／となりに生きる動物たち／水族館ガール」
2016/8/1	東京都北区 NPO・ボランティアぷらざ通信 8月号 (August, 2016)	「活動を支えてくれるボランティアを募集しています!」
2016/8/2	Alterna	10年目の今夏に終わる「IL for 10L」をどう評価するか
2016/8/29	Nice ニュースレター 消費者教育研究	ACE ワークショップ教材「この T シャツはどこからくるの?」

以上